關西大學新報

発行所
大阪市大淀区長柄中通
関西大学天六学舎内
関西大学新報社
電話堀川㉟1756番
発行人　奥谷博之
（定価一部十円）

卍　書買トモニ御利用下サイ
萬字屋書店
大阪市北区梅田町一番地（地下街）
電話（34）三〇九三番　卍

栄ある卒業生二一五二名

二十日千里山で証書授与

昭和三十年度の卒業式は来る二十日（火）に千里山第一学舎講堂で開かれることになったが、それにさきだって十二（法、文）十四（経、商）の両日成績査定の教授会がおこなわれ、その結果、十四、十五日の両日、四年次生の成績発表がおこなわれた。これによると二十日目出たく卒業の栄をかちえるのは一部一千三百九十七名、二部七百五十五名、合計二千百五十二名となっており、これに短大の卒業生三百二名を加えると二千四百五十四名が本学を巣立つことになる。

この卒業生の学部別の色分けをみると、法学部が政治学科も含めて七百三名（うち二部は二百八十四名）文学部が八学科で三百十名（九十三名）経済学部は八百四名（二百六十八名）商学部三百三十五名（百十名）となっており、経済学部の卒業生の多いの注目されている。

一方、卒業延期、残留と決定した者も一、二部合わせて五百十一名と可成り多くの数を示している。

従来、一、二部別々におこなわれていた卒業式（学士証書授与式）を千里山第一学舎の完成によって本年度は一、二部合同して二十日午前十時から法、文学部、午後二時から経、商学部が新装の第一学舎講堂でおこなうことになったが、このほど当日の式次第が次のように決定した。（法、文および経、商ともに同じ）

卒業生、教職員、来賓の入場
一、開式
二、学歌（第一節）
三、証書授与（各学部別）
四、告辞（岩崎学長）
五、祝辞（文相、校友代表、教育後援会長）
六、答辞（別掲の卒業生総代）
七、合唱（蛍の光）グリークラブ

続いて学友会の功労者に対して学長および石井教育後援会長からそれぞれ学友会賞状授与、学友会功労者賞状ならびに賞品授与がおこなわれ、来賓と教職員は退場。引き続き校友会入会式が挙行されることになっている。

学部総代決る

学士証書授与に際しての卒業生総代が次のように決定、発表された。

【法学部】
一部卒業生総代　菊池永富子
二部卒業生総代　米田　泰郎
【文学部】
一部卒業生総代　栗原　隨
二部卒業生総代　若林　孝子
【経済学部】
一部卒業生総代　守谷　精朗
二部卒業生総代　戸田　道行
【商学部】
一部卒業生総代　堀江　久雄
二部卒業生総代　大西　吉雄

なお学長の告辞、来賓祝辞に対する答辞は法、文学部を代表して植田鶴子さん、経、商学部を代表して島崎彰夫君が述べることになっている。

学長賞　清水君ら三名

教育後援会長賞も決る

卒業生のうちで、在学中に学友会活動（主として自治、執行の面）に従事し、特にその発展に寄与した功績の大な者に、学友会長である学長から卒業式ののちに表彰状（通称学長賞）が贈られることになっているが、今年の被表彰者には次の三君が決定、二十日岩崎会長から表彰されることになった。（【】は略歴）

新村博光（法学部）
【自治委員四期、執行委員二期】
清水礼治郎（法学部）
【自治委員四期、総務部長二期】
金沢泰幸（法学部）
【監査委員長二期】

また学友会功労者に対しては、教育後援会から後援会長賞として賞状ならびに記念品が贈られるが、その被表彰者として次の八名が発表された。（【】内は略歴）

竹本啓介（法学部）
【副執行委員長】
吉井俊夫（経済学部）
【副執行委員長】
新村博光（法学部）
【副執行委員長、学研部長】
清水礼治郎（法学部）
【学友会総務部長】
前田健郎（文学部）
【学術研究部部長】
坂東敏雄（文学部）
【体育部部長】
金沢泰幸（法学部）
【監査委員長、新報社主幹】
井上雅生（法学部）
【弁論部部長】

警察日記など上映

卒業生歓送会開く

二部学友会では、昨十四日午後六時から天六学舎講堂で、四年次生の卒業を祝して卒業生歓送会を催した。

最初、卒業式当日におこなう予定を立てていたが、会場などの関係上、二十日の開催が不可能になったので、成績発表の行われる十四日に変更したもので、このため執行部では十日、案内状を発送して四年次生の出席を求めた。

当日は映画（白鳥の湖、警察日記短編漫画）が上映され、記念品が贈られるというので、成績発表のあと、会員が会場に押しかけ、広い講堂が満員になるという盛況でこのため予定していた記念品が足りなくなるほどであった。

会は"白鳥の湖"上映のあと山田学生部長、岡部校友会常議員、園田執行委員長の祝辞、挨拶があり、それに続いて"警察日記"を上映、九時半すぎ盛会裏にこの幕を閉じた。

なお当日、紅白まんじゅうとともに、岩崎学長の卒業生に贈る"尖の三訓"と題する言葉を刷った色紙を記念品として贈る予定をしていたが、印刷の関係上卒業式当日に贈ることになった。

名簿を二十日に配付

発行のおくれていた昭和三十年度の二部学友会会員名簿が、このほど出来上り、二十日の卒業式当日配付されることになった。本年度の名簿は、大きさがB・6判からB・5判になり、組み方も横組みに変っており、学友会の諸規定を最初にもってくるなど工夫のあとがみられ、従来とは全く変った感じのものに作りあげている。

論説　学窓を巣立つ諸兄姉に

栄ある卒業式の蔭には秘められた努力と苦難の足あとが残されている。しかも、諸兄姉の前途は必ずしも安易なものではない。

四年間の蛍雪の功なって……といいたいのだが、昼間は職業に、そして夜のひとときを勉学に精励してきたひとびとにとっては、そんなロマンティックな表現ではあきたりない。苦難と努力が秘められていたことであろう。とにかく手にした学士証書に胸をふるわせて喜ぶ前に、苦しかった四ヵ年の一日、一日がよみがえってくるに違いない。一部の学年以上に、諸兄姉の御卒業を心から祝福したいのもここにあると思うのである。

四年の歳月は経ってみれば何でもないようであるが、実は一日、一時間、そして一秒、一秒にわたって、根気よく積み重ねられた努力の結晶が集大成されたたまものなのである。諸兄姉がはじめて本学の門をくぐられたとき、恐らく今日こうして学窓を巣立って行かれる以上に多くの学友をもっておられたことだろう。

それがあたかも自然の万物が雨風にさらされ、あるものは地上から姿を消すように、いつとはなく途中に落伍して行ったひとも数多くあったのである。最後まで踏みとどまり潮風にも屈しない磯馴松のように、忍耐力の強さを示してくれた諸兄姉こそは、世のあらゆるひとびとから祝福されて当然であり、またこの点自ら誇り得るものであると思う。

ところが、社会の現実は諸兄姉の新しい門出を迎えるにはあまりにも厳しい。諸兄姉はすでに在学中にこれらの問題と直接取組んでこられ、ある意味では社会人として他にひけをとらないだけの自信をもっていると思うが、それにも増して、社会は二部学生を受け入れるに容易でないことをここにあらためて自覚すべきであろう。卒業式が一、二部合同になったとはいえ、また学士証書に両者の区別はないとはいえ、社会の眼はそのようなものにごまかされる程甘くはないのである。職業と勉学を両立させていた頃とは全く違った新しい意気でもって、この社会の激流の中に、のみ込まれないよう泳がなくてはならないのである。それには、徒らに激流に逆ってもならないし、また、要領第一で泳ぎ切れるものでもない。

諸兄姉は四ヵ年を天六学舎に学んだ第一走者だったのである。当時、千里山にとどまるか、交通の便にめぐまれた天六に移るかは大きな問題として、われわれもあらゆる客観情勢をつぶさに考え合せたのであるが、学校側の意向はすでに決定的であったし、学生側の意見も交通の便をとっていたようで、なんらの波乱もなく二部の天六学舎移転が決定したわけであるしかし、交通の便という一つの条件を除外するならば、お世辞でも学園という名にふさわしいとは思えないこの天六学舎であった。研究室もない、厚生施設もほとんど皆無、グランドもない、もちろん学生の集会場のようなホールもない薄暗い鉄筋の中で、よくぞ四年間辛棒したものと、ただ感嘆するばかりである。せめて卒業式だけはという学校側の儀礼的なお膳立てで、千里山で行われることになったのかも知れないが、卒業して行くというひとびとへの贈物としてはあまりにも形式に過ぎず、かえって皮肉でさえもある。それならば、何故在学中にもっと天六学舎の改善を図り、勉学し易い学園にするための努力をしなかったのだろうか？たとえ粗末な学舎であったとしても、かえって四年間の貴い足あとを残した天六学舎で卒業式をやって欲しかったと郷愁を感じるのも無理からぬことである。まして、ウィーク・デーに行われるとなると、夜間生を無視した卒業式であるといわれても反ばくの余地がないであろう。

とはいえ、諸兄姉はいよいよ学園を去って行くのである。前にも述べたように、社会は複雑極まりない網の目を形造って待ちかまえているのである。憲法改悪が公然と国会に提出され、再軍備、徴兵制という、われわれがもっとも恐れた足どりを今またたどろうとしているのである。四年前、まだ破防法が問題になりかけていた頃、憲法改悪もほんの一部の扇動にすぎなかった頃、あの頃から思うとよくぞこれ程、逆コースをたどったことだろうと感慨にふけるとともに、戦慄さえ感じるのである。あの頃、われわれが予期した最悪の事態が現在の動きを支配している以上、今われわれが予想している将来の最悪の事態が再現しないと確信をもつことは出来ないのである。このような意味でも、多難な時代に多難な道を歩んできた諸兄姉の門出は大きな意義を持つとともに、慎重な態度で新しい社会にのぞむ自覚を要請されないわけにはゆかない。しかも、関西大学の卒業生として、いかなるひとにも遜色をとらない社会人となることは容易な問題ではないと思う。諸兄姉は大学の門は出るのであるが、それ以上に難関の横たわる実社会という門をくぐるものとして、更に新しい決意でバトンを引継いで行くことを心から祈ってやまないものである。

校友手帳を配付

校友会では卒業式に引き続いておこなう校友会入会式に際して、卒業生会員に校友会の会則、役員氏名、支部（職域会などを含む）分布規定ならびに本学の沿革などを記した五十頁前後の校友手帳を配付する計画をたてている。

評議員会召集さる

昭和三十一年度の予算案を審議する定例評議員会は、来る二十二日午後三時から天六学舎四十二教室で開かれることになり、さる十三日召集通知が出された。

十八日に常議員会

校友会では活動の円滑化をはかるため、広報部など五部の会務処理機関を明文化した常議員会会務分掌規定を制定し、活発な活動を開始しているが、来る十八日午後六時から天六学舎理事会議室で常議員会を開き、昭和三十一年度の予算案を審議する。

成績発表に教務課満員

追試残留者は二百五十二名

四年次生の成績は、十四日に法、文学部、十五日に経、商学部が発表されたが、教務課は成績表をもらいにくる四年次生であふれ、特に十四日は、当日法、文学部と同じように成績発表があるものと思ってやって来た、経、商学部の学生が係員と口論する場面などあって、卒業の可否が決する時の一種特有の緊迫した空気をかもし出たが、経、商学部は十四日に合格者の氏名のみを発表し、十五日に個人の成績表を発表することで了解がなり立った。

この成績発表の結果、二十日には卒業できず、追試験を受けねばならない残留者は二部の場合、法学部が六十四名、文学部三十八名、経済学部百四名、商学部四十六名にのぼっており、一部にくらべて卒業者数の割合いに残留者の多いのは注目される。

なお、この他卒論の不合格などによって、追卒不可能者も相当数あるもようである。

【写真は十四日教務課における法文学部の成績発表風景】

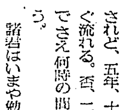
千里山第三学舎地鎮祭を挙行

千里山第三学舎の地鎮祭は十五日午前十時から体育館うしろの台地で久井専務理事、山田学生部長、石井後援会長、村上庶務課長、園田執行委員長ら関係者約三十名が参集しておこなわれた。

社会に巣立つ人々に寄せる二つの期待

決意新たに勉学を

大和紡社長　加藤　正人



諸君はいまや長年の蛍雪の功成り、いよいよ社会に船出されることになったのであるが、私はいまこそ勉強はこれからだと申し上げたい。

諸君は小学校より大学までの長い学生生活において自ら進んで勉強された方もあるが、他面試験のため致し方なく勉強された方も相当あるはずである。

とに角学生生活には試験がある。従って積極的に好んで勉強されたにしろ、また消極的に致し方なく勉強されたにしろ、学生生活に試験はつきものであって、少くとも勉強はして来られた。

ところが今や社会に出られて学生時代の如き試験は無くなったのである。勉強するとせざるとは全く諸君各自の自由意思に任さることとなった。

顧りみれば小学校から大学まで試験で随分苦労された方もあると思う。試験がなくなってヤレヤレと思う方も相当あるはずであるし、厄介払いしたように気持がセイセイする方もあるであろう。

翻って静かに考えてみるに、人の能力は元来大差はない。殊に学生生活においては積極的に勉強する者極的にと消勉強する者との差はあっても、とに角何れも勉強はするので、両者の能力の差は取り返しのつかぬほど重大ではない。

然し、然しだ。社会生活においては勉強は全く各個人の自由意思に任されているので、い大に勉強する者と、全然勉強せざる者との間には大いなる能力の開きが生ずる。殊に社会生活の長期に亘ることを考慮に加うれば、いよいよ能力の開きが生ずる。これ即ち世に所謂成功者とからざる者との分れる一つのし有力なる原因である。

卒業生諸君よ、諸君は若い。皆よき素質の持主なのである。されど、五年、十年の歳月はすぐ流れる。否、二十年、三十年でさえ何時の間にか経って終う。

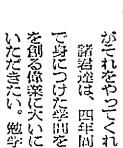
諸君はいまや勉強はどうでもよい自由の身となった。従って勉強を軽んずるという意識はないが、つい忘れて終い易い。問題はここだ。

諸君よ、諸君は自己を大事にして青年の日の夢を実現せんとするか、あるいは自己を粗末に取扱い、夢をして終に夢に終らしめんとするか、それは一にかかって諸君自身の決意如何にあるといえよう。

諸君よ、願わくは時間の貴重さを知れ。そして今後も勉強せよ。思索せよ。見聞せよ。そして国家のため、社会のため、この世に生を享けたる自己の生存価値を見出し、因て以て悔をこの世に残すこと勿れと叫びたい。

適確な現実把握を

総評事務局長　岩井　章



めでたく卒業されたことを心からお祝いしたい。昼間の労働に疲れた身体を鞭うっての四年間の学校生活が、どのように苦しかったかは想像するに余りある。それは、困難な、強固な意志の力を要する事業だったと思う。この難事業を見事仕遂げた諸兄を私は偉いと思う。決して御義理にいっているのでない。

私達労働運動にたずさわっているものにとって、学問がどんなに必要なものか改めていうまでもない。しかし、私達の周辺を見回してみると、コツコツ勉強している人はそういない。このようにわれわれ労働者にとって、学問を身につけることはなかなか困難である。諸兄はこの困難に打ち克った。

諸兄の中には学歴をとるためだけに苦学した愚か者はいまい。学問を衣として身に着けるため、睡い眼をこすって勉強を続けた人はいまい。そういう学問が本当の学問でないことを知らない人は諸兄の中には一人もいまい。

日本も敗戦後すでに十年を経過した。敗戦直後の混乱も頽廃もどうやら、そのかげを消した。しかし、明るい平和な日本の建設という事業はまだ遅々として進んでいない。この事業遂行の責任は一にかかって諸兄達未来を背負う青年の双肩にかかっている。

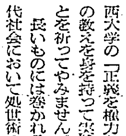
青年は純真である。悪を極度ににくむ。不正を嫉う。自己献身的精神に燃えている。理想に燃えている。この青年の熱情によって歴史の歯車が回転するのだと思う。今の日本にとって、もっとも必要なものはこの青年の熱情だろう。だが、歴史の歯車は、この純真な熱情のみでは現実に前に回転しない。新しい日本の建設のためには、鮮しい未来を創るためには、その中に過去を蔵し、未来の要因をはらむ現在の本質を適確に理解することが、まず必要となる。この現在を支配している社会法則を身につけることが肝要だ。だが、われわれは、この闘いで一歩前進することができた。諸兄がそれをやってくれたからだ。

諸君達は、四年間の苦学生活で身につけた学問を、この未来を創る偉業に大いに役立させていただきたい。勉学をさらに続けて、この偉業の達成の日を早める努力を重ねてもらいたい。

未来を創る運動は、今日、労働者を中心としなければならなくなっている。労働者が学問を身につける闘いを行うことがしたがってますます必要となっている。この闘いは、諸兄の協力によって有効に展開することができる。諸兄が推進母体となって、この闘いを強化することをわれわれは固く信じている。諸兄の学問は、地についたものであったに違いない。労働経験と密着した勉学を続けていたに相違ない。労働者の前進を阻んでいるものが何であり、それがどのような方法によって除去されうるかを知ろうとして諸兄が、この四年間の苦学生活と闘ってきたに違いない。そう私は確信している。

惟謙の精神護れ

執行委員長　園田実



四年間あらゆる障害と闘いながら栄えの卒業を迎えられるにあたって心からお祝いを申し上げます。

われわれ二部学生は社会人としてまた学生としてその両面から今日の政治の貧困を毎日嫌という程知らされてきました。そして近い将来に憲法改正—再軍備—徴兵制という大問題をひかえ反動政権は小選挙区制を実施しようと図っています。

このような中で今こそわれわれ青年の活躍が多くの真面目な社会人に期待されている時だと思います。この時に社会の指導者として大学の門を出て行かれる皆さんが新しい世の中を創るためにわが関西大学の「正義を権力から護れ」の教えを身を持って実践されんことを祈ってやみません。

長いものには巻かれろ主義が現代社会において処世術のごとくいわれています。しかし、もしなおわれわれにしてこのような考えを持つならば日本の将来は暗たんたるものなのでしょう。新しいものを創り出すためにはあらゆる困難が横たわりある時は権力者による迫害が行われることは歴史的にもはっきりしていることです。

正義を護ることがいかに困難であるかはすでに矛盾した社会の中でいろいろと体験している通りでありますが、しかしわれわれはたった一人ぼっちではありません。その周囲には何人かの人が常にいます。それらの人々に理解してもらいたい、共に協力して行くために根気よく話合はねばなりません。飛上った行動や一人よがりはいかに正しいと思っていても台なしにすることもあるでしょう。常に環境を考え、客観的に物事を判断し、地道に信念と情熱をもって、正しい方向に自ら進んで行く時に、正義は護られうるものであると思います。

あらゆる職場で社会の指導者として活躍される諸兄姉の行動は多くの社会人に関西大学出身者として注視されるでしょう。諸兄姉の「正義を権力から護れ」の実践こそ関西大学の名を掲げ七十年の伝統と歴史の上に新しい一頁を飾ることでしょう

最後に五万校友の一員として、はたまたより良き先輩として、われわれ後輩に対する御指導の程を御願いしますと共に、母校発展のために大いに活躍されんことを祈ってやみません。新しい社会の創造のためにわれわれもともどもに歩み続けることを誓うものであります。

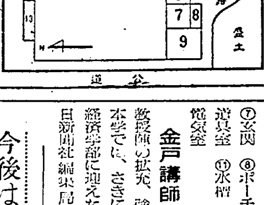
体育館の設計図なる

本学拡充第二次五ヵ年計画の一環としてあげられていた天六学舎西隣りの体育館の建設がこのほど理事会で決定、今春四月から着工される運びとなった。

その設計図によると、体育館の建坪は三百余坪で二階建となっており、内部には現在学生課横にある医務室を移転、二十坪の診察と教師室、部員室、ロッカー、体育室などに分けられている。

また体育館外の南側には芝生と築山の庭園が予定されており、工事がスムースに進行すれば六月に完成するものとみられている。

体育館が完成すれば、医務室のあとには就職課と学生部長室が新設され、正門横の体育館は一部分が学友会会議室に、残りが体育部控室として使用されることになっている。



図の番号は次の場所を示す。
①体育室　②便所　③シャワー室　④ロッカー　⑤部員室　⑥教師室　⑦玄関　⑧ポーチ　⑨診察室　⑩道具室　⑪水槽　⑫ポンプ室　⑬乾燥室

金戸講師　教授に

教授陣の拡充、強化を図っている本学では、さきに花戸神大教授を経済学部に迎えたが、このほど毎日新聞社編集局参与金戸嘉七氏（非常勤講師）の文学部教授就任をみたほか、勝本、川口両助教授の教授昇格などが決定した。

既報の分を除き、現在までに決定した教授、助教授、専任講師は次の通りである（カッコ内は学部名）

▽教授　勝本進（文）川口勇（文）金戸嘉七（文—新任）
▽助教授　杉原弘人（文—新任）
▽専任講師　高島義郎（法—新任）

なお語学授業の充実のために外国語担当教授の補強も併せ図っているが、すでに（第二外語独、仏語）担当の講師として元大阪外大教授目黒三郎氏ら十三名の決定をみた。

今後は全学的な運動へ

執行委一年の活動を反省

三十年度の学友会活動をふり返って、執行委員会内部における反省会が、さる五日学友会本部でおこなわれた。

当日話し合われたうちから主なものを拾ってみると、まず第一に委員の出席率の悪かったことがあげられ、一年間を通じて全執行委員が出席したのは夏期休暇中の八月二十七日に中之島公園で開いた委員会だけで、その他の執行委員会には必ず欠席者が見受けられたということについては、自治委員会の活動不振とも大いに関係のある問題として注目された。

この点に関して各委員からは「各役員が定められた責任を全うしなかった」と強い反省の声があがっていた。

また一般学生との結びつきについても議論がおこなわれ、結論として、"指導性に欠けるものがあった"ことを率直に反省している。

そのほか反省すべき点としては、①執行委員各自が授業をあまり受けなかったこと、②学友会主催の行事に対して全執行委員が協力することができず、一部の人が、オーバー・ワークになったこと、③行事がお祭りさわぎ的な傾向におちいってはいなかったか、④活動が組織的でなく、あと一歩という"押し"がみられなかったこと、⑤前年度学友会からの引継ぎが欠けていたことなどの諸点があげられた。

なお今後の活動の進め方としてはもっと一般学生の中に入りこみ、全学生をあげての学生運動をすべきであるというのが全委員の一致した意見であった。

いままでの学友会においては年間の活動を反省することもなく過されていたのに反して、今回、反省会がもたれたことは、今後の学友会活動に大きくプラスするものとして各方面から期待がよせられている。

執行部便り

学友会の栞再検討

三十年度最後の学友会執行委員会がさる五日学友会本部で開かれ、"卒業生歓送会""新入生対策""厚生問題"など当面の問題を中心に討議がなされた。

新入生対策としてはまず例年出されている「学友会の栞」を再検討して、内容を学友会会則だけに止めず、価値あるものとするため学友会各クラブの紹介などを取りあげ、目下準備が続けられている。

また厚生問題については既報のように生活協同組合案を学校当局に提出しており、本月末に井野辺厚生部長が上京、全国学校生活協同組合理事会にこの旨を申請して、助成金を出してもらえるように運動するもようである。

時計台の修理

執行部ではさきごろの委員会で天六学舎正面に設けられている時計台の「完全修理」を決議、大学当局にこの旨を要請することになった。

下宿の斡旋へ

執行部では下宿の斡旋を学生課に依頼するとともに、今春の卒業学生のうちで下宿の不用になった者は在学生のために下宿の斡旋あるいは譲渡を学友会本部まで申し出てくれるようにと希望している。

訂正

前号第一面の昭和三十一年度予算大綱に関する記事のうち、建築費三千四百万円は一億六千万円、天六学舎増改築三千万円とあるのは二千万円、第三学舎の建築費一千四百万円は一億四千万円の誤植につき訂正いたします。

學声春秋

世は"桜花将に開かんとする佳き日"の連続であるが、新卒業生諸兄姉もめでたく式を迎え本学創立七十周年式典に臨み豪華？な学舎に学んだ最初の卒業生という栄冠を得た。まことに恵まれた光栄と感ずる人もあれば、あるいはそんなことに意義を見出す「情緒」はすでに失われてしまったという先輩もいるだろう▼尊敬すべき先輩"を魚釣りに擬して恐縮だが、ウマク卒業証書を釣り上げホクソ笑んだ御人もあったであろう。とかく釣天狗はその名誉を誇りたがるものだが、こればかりは自慢にならない。七十年の伝統が諸兄姉の一人々々に象徴されることに留意してほしい▼象徴といえば天皇が再び神様になる危険☆がある。鳩山首相の失言問題もさることながら"防衛の義務を課す"ことを目的とする小選挙区制には青年として注目したい。防衛の義務を"徴兵の義務"に入れかえて戦争＝死への道を歩もうとしているのだ七十代の御老体たちが青年の墓場をつくるというのだから皮肉な話である▼皮肉といえば本紙が前号「記者の眼」で教育後援会賞裏話を取りあげ、執行委員長園田君を"間抜けたボス"と皮肉ったところが、彼氏怒って"ボスとはけしからん"とドナリ込んで来た。公僕たる園田君の立場としては無理もなかろうが大人気なかった。大体後援会賞そのものが一般学生には眉ツバもので、例年、学生大会をヒッカキ回したり、自分は当局の授業料援助を受けながら、一般学生にはその納入義務を強いたりする者に贈られて本当に真面目な学生が賞に選ばれてきたとはいい得なかった。さて今年はどうだろうか▼園田君の苦労もここにあったのだろうが、お互い"学校のため"にすることには節操を尊びたいものだ。勿論、学生が学生を推薦する不合理を要求する後援会側にも責任はあろうが、ともあれ記者の眼字にはほとんど鴨東綺譚」の一部だった。

川上教授二十日に出発

来年度の国外留学生も決る

昭和三十一年度の学外研究員のうち、国外留学生三名が、さる三月八日の理事会で次のように決定した。

在外視察研究員（留学期間六ヵ月）
文学部　高橋　[illegible]教授
在外学術研究員（留学期間一ヵ年）
商学部　植野　郁太教授
経済学部　杉原　四郎教授

一方、三十年度の在外視察研究員に決定していた川上敬逸教授（法学部）は、来る二十日神戸港からフランスM・M汽船のヴェトナム号でマルセーユに向けて出発することになった。なお三十年度の在外学術研究員は外貨の関係上、藤本助教授は五、六月ごろ、松原教授は十月ごろにそれぞれ出発する予定である。

東京・静岡・名古屋への　御進物には
マツザカヤの
直配承り
を　御利用下さい
上記各都市及びその近郊にお住いの方への御進物は　宛先地の松坂屋へ連絡して同一品を直接・迅速・安全にお届けいたしますから途中の運賃が節約できます
御進物相談所へ（3階）
松坂屋
大阪日本橋三

THE
NIHON KEIZAI
創刊明治九年
中外商業新報改題
日本経済新聞
大阪・東京発行
朝刊 12頁（月曜8頁）
1ヶ月　300円
あなたの生活を明るく豊かにする
☆君の未来を確約する——いやもっと端的に云って君自身を、その日、その日新しい君自身を創り出す礎となる新聞——日本経済新聞。
☆みのりの秋——あらゆる知識の刈入れ期。本紙の「経済教室」は、君に必須の経済知識の、それもエッセンスを提供するだろう。
日経独得の学生のページ　経済教室
◎経済の理論と実際問題の平易な解説
◎「やさしい経済学」一橋大・東大一流教授陣執筆
◎「ワーク・ブック」学生一般に政・経の基礎知識を
◎入試問題の適切な検討・時事問題の徹底的研究
日本経済新聞社大阪支社　大阪市東区今橋1の15　電北浜㉓521—5

日本で唯一の
夕刊英字新聞
ASAHI
EVENING NEWS
¥200　Per Month
朝日新聞社

祝御卒業
出版　教科書
専門図書
株式会社　三和書房
本社　京都市上京区河原町通今出川上ル
大阪支店　大阪市大淀区長柄中通2の12
神戸支店　神戸市東灘区御影町字郡家925
東京支店　東京都千代田区神田小川町3の6

Everybody who is Anybody
in Japan reads the
Nippon Times
¥300円　Per month
学生のための週間英字新聞
Student Times
毎週金曜日発行・1ケ月　¥80
日本タイムス社
東京都千代田区内幸町一ノ一
電話59—5311—5319
大阪支局・北区堂島ビル
電話36—0170—0177

大学生活終了に際し

文学部助教授　覚田知義

時々大学卒業という何んでも知っているように思っている人がある。私の卒業は北陸の寒村であるが、大学在学中帰郷すると中学生、高校生の休暇の宿題の難解なものは全部持ちこまれて困ったことがある。文科系は何んとか出来るが、高校生の理科系のものはわからないことが多い。これでも村では大学にいっているという経済力家ことごとくわかるかの如くに思っているのである。これは極端な場合であるが仮に私のように大学で教育学に専攻すると案外世間に明るい人でも教育学については何んでも知っているかの如くに思う人がある。

私は大学を出てすぐ小学校に勤めたのであるが、その当時旧制大学で教育をやって小学校の先生をやる人はめづらしく、早速研究部とやらにいれられた。当時は経験主義の教育が新教育として流行の最先端を行っていたが大学では全然そんなことは教わらなかったし自分でも教育哲学とやらをやるつもりで哲学の本ばかり読んでいたので全然教育については知らなかった。ところが奉職先の小学校では大学で教育をやって来たのだから全部知っているものと思って次から次に仕事を命ぜられるので全く困ってしまった。あわてて本を読むやら人に聞くやらで何んとかはなくかたずけたけれども、その当時か全く睡眠も充分にとれなかった。そのうえ苦心したつもりの仕事の結果が同僚からさんざん批判され訂正され、原形をとどめぬまでにされたときには全く涙が出てしまった。

もっとも考えてみれば無理はないのでいかに教育学専攻といえ卒業したばかりであるから出来なくてあたり前なのである。大学の勉強なんというものは出発点を教えてくれるだけであるから、訂正されない方がおかしいのである。

しかし口惜しく思い、涙が出たのはやはり原因はあったのである。今まで私はあまりに平凡無事な生活を送って来た。他人に批判されたりなんかした経験がなかったためであったと思われる。いいかえれば、いわゆる坊ちゃん育ちというか、温室育ちというかそうしたものが原因であろう。尤も今日といえどもそれはなおらないので困っているのであるが。第二に自分の努力に対する結果があまりにもみじめであったことがあると思う。人に認められなかったということもこの中に含まれようどちらにしても考え方が甘かつたといえばその通りであるし、私の考え方が足りないしまた誤っていたのは事実であると思う。

恐らく卒業される人々のうちには私の如き坊ちゃん育ちの人や、甘い考への人はないと思います。しかし苦労して大学を出たその結果何か残ったのであろうか、或いは何かその結果報いられたものがあるのであろうかと、やはり時々ふっと考へる人があるのではないかと思います。そうしますと今日の大学の歴には法制的にはあまり、これが残ったとか、こんなように報いられたというものはないのではないかと思います。特に二部の人達にとってはそうだと思います。経済をやったから経済学に秀いて権威になったとか。法律をやったからといって法律学に秀ては心得ており法律問題は俺にまかせろというようなものでもないと思います。大学を出たから良い就職口があったということも今度では少ないと思います。

こうして考えますとあまりにも収穫の少ない大学生といえるかもしれません。勿論哲学をやってみたい、英文が好きだから法律を、経済学を勉強したかったからという人々は勿論何んらかの知識を取得されたことと思います。私は大学を出た時にやはりそんなことを考えてみました。そして最も良かつたものはといわれたら、あらゆる意味のものを含めて「大学生活を送ったこと」いうことだと思いました。非常に抽象的であいまいなことでしたが、大学を中心として過した生活、大学に行っていたために出来た生活これがもっとも有益なものであったと思いました。

講義は試験の終了とともに忘れても大学生活は忘れないと思います。またよくサボッていても大学に行ったということがやはり大学に行かないで生活していくよりはその後の生活に何か変えて来たものがあるのではないかと思います。

つまり大学に行った為にえたものは直ちに表面化し、何らに効果絶大なものではなしに、もっとちがったものとしてあると思います。もっともそれが卒業後の生活によってより成長させられたがために明瞭になる場合と、くづされていったがためにいつのまにかなくなってしまう人があると思います。

「大学は出たけれど」という言葉がありますが一面では誠によく今日の時代を表現してはいますが一面ではこれはやはり今後の生活によるのではないでしょうか、出てからの生活が大学生活とどのようにつながっているかが問題だと思います。

制限がきたようですのでこの辺でやめますが、私は卒業生に希望するなどとはとてもいえません。むしろ私自身よりは諸君の方が苦労して出ておいでですので実感がつよいだろうと思いましたので私は私の大学卒業後に一年間に感じたことを書いただけです。

強いて希望をかけば「長生きして、希望を失なはずに、コツコツやっていただきたい」という平凡なねがいだけです。

そして私自身がいろいろな意味で二部の諸君はもっともっとめぐまれて卒業され、卒業後ももっと多くめぐまれることがあってよいし、一日も早くそうならんことを望んでいます。

苦楽の四年間を顧みて

卒業生の座談会

カットは、ともすれば単調な二部学生生活を、楽しく潤いのあるものにする学内行事の一つ、創立七拾周年記念大学前夜祭風景と、新装なった千里山第一学舎

蛍明りの天六学舎の下で、来る日も来る日も職場の疲れをいやす間もなく勉学に励んだ四年間、その苦楽の思い出を一つにしていま晴れの卒業式を迎えた。夜間生にして、はじめて出来るこの経験は何にもかえ難い貴い経験であったに違いない。果して入学当時の理想をこの四年間で実現出来たであろうか？そしてまた、どうしても実現出来ずに取り残したことはなかっただろうか？このような問題を中心に、今春学窓を巣立たれる方々に集っていただき、楽しかったこと、苦しかったこと、それらを互いにひざをまじえて話し合ってもらった。卒業するひとびとには、関大生活の総決算にもなるだろうし、また在学生にとっては今後のよき指標となるに違いない。

司会　いよいよ御卒業されるみなさんにまず入学当時のなつかしい思い出話がいろいろあることと思いますので入学の動機といったところからお話しねがいましょうか—。

坂東　とにかく入学できてうれしいでしたよ。動機といえばただ学部に入りたかったからですがそれに先輩から盛んにすすめられたものだから勉強はそっちのけでした。（笑）学生生活を愉快にすごしたかったし、友達も沢山つくりたいと思っていましたので。

岡本　私は旧制中学時代から夜学でしたから、偉大な希望をもって大先輩の後に続こうと思っていたのでしたが、だんだんなれてくるとそんな意気込みもどこへやら、すっかり惰性的になってしまって……。

味府　一年の時は一週間ぐらいしか講義には出ていませんの。というのは男の方ばかりですので気おくれしましたので。

足代　私は短大を卒業してから編入したのですが、動機は会社を退けてからの時間がもったいないのと、短大だけではどうもパッとしない。そこでどこか適当な学校に入りたいと思いましてね、地理的に便利な関大にということになったのです。二年間のブランクの後に、途中から仲間入りしたので最初に皆がつめたいように思われましたが、いまは多くの学友が出来て助かりましたよ。

喜納　私は高校を出てある会社に勤めていたんですが、みなにすすめられて関大に入りました。大学生になってみればやはり欲が出て、ひとつ何かものにしてやろうという気が起って来ました。（笑）

岡本　僕も同じです。同じやるなら"可"よりも"優"を並べて卒業したかったかね。（笑）

坂東　その点、僕なんか「勉強するなら会社を辞めてくれ、面白く過そうと思うなら大学へ入ってくれ」といわれましたね。それに六年間ブランクがあったんですが、やっぱり欲が出ましたね。ただ学歴をとりたいという意欲にかられました。

岡本　やはり自分のとりえを生かしていくべきですからね。

坂東　それに勉強していく上に環境の点ですが、たしかに天六は悪いですね。その点千里山はめぐまれているのでうらやましかった。

岡本　最後の一年だけでも千里山で勉強したかったですよ

司会　在学中のとっておきの思い出についてどうでしょう？

学生運動に無関心
まずい食堂には閉口

司会　一般学生と学友会とがかけ離れているという人もありますが……。

清水　自治委員が教室に入って伝達したり、苦情を聞く態度は好ましいのですが、一般の学生が自治委員を知らないようです。

岡本　僕自身、学生大会も自治委員も知らずに過ごしたのですが時間がないため、実際関心を持つに持ってなかった。しかしクラブ活動しているものも、一般学生もお互いに無関心すぎるのですね。だから僕たちと活動している人との関係が切れているのではないでしょうか。

喜納　協調して行く態度がまだできてないんですね…。

岡本　二部ではね…。学生大会をもっとエンジョイすべきですが、経済的におわれたり、時間がなかったんじゃ、学友会やクラブ活動に関心をもつ動機が得られないです。その点良く自覚していますが、大学の存在を外部へ知らす方法としてクラブ活動は一つの要素を示していると思います。やはりみんながどんなことでも分担していったら、一部としての悩みも解消するんではないでしょうか。

前田　私も無関心な方なんですが、学校の食堂などもどしどし改善していってもらいたいと思ってたんです。

岡本　たしかにこゝの食堂は安くてまずいですね（笑）

足代　短大二年の時だったと思うんですが、英経済の講義のとき食堂の上の四一教室で勉強していたら、食堂からの匂いで空腹を刺激されてつい講義もそこそこに下へ降りて行ってね。まずはお茶でもと思って飲んだんですよ。ところがそれが酒でしてね野球部かなんかの祝賀会の酒だということでしたが一ぱい飲んでしまってからこれはしまったと思ったのですが後の祭、さっそく講義をうけにいきましたが、黒板の字がちらりちらりとしてね。とにかくちょっとケッサクな思い出でしょう。

岡本　私は姫路から通っていた関係で自宅で勉強する方がよく出来ると思って学校へはあまりこなかったがそれでもね…聴きがいのある講義には出席しました。要するに講義内容さえよければ出て来る気になるのですね。授業料を払って時間を費すのが惜しい気がするときもありましたよ。（苦笑）

坂東　僕も愉快だったのは、合宿で四国へ遠征したときです。カレーライスを作るのに便所の板でかきまぜてそれをみんなに喰わせたんです。（大笑）とくに面白く過したわけでもないのですが、よく遊んだ代り四年になってしぼられましたよ。単位はとれていないし、卒論もあるし、自然によく勉強さしてもらいました。（笑）この意味で卒論はいいですね—読まない本でも読むようになるから…全く不思議です。

足代　そうでもないでしょう。私なんか短大から編入したので単位をかせぐのに苦労しました。試験を終える度に、一科目ずつ自分でメモしておいて自己評価を試みました。卒業できるかどうか最後まで心配でね。この数週間はノイローゼ気味ですよ。

味府　学芸部に籍をおいていましたが、"破戒"を公演したときはいろいろな意味で深い感銘をうけました。やはりクラブ活動はしておくべきものですね。

岡本　時間があればクラブ活動をやっておけばよかったのにと思います。時間があれば誰でも活動しますよ。時間のないのをムリして活動していってこそ意義があると思いますね。

味府　クラブの関係そのものに研究しようとする意欲がでてきているようですね。こんなことから女子同好会を作る動機を得たのですが……。それから、先生方にさそわれてよく飲みにも行きましたが、学問的なことばかりでなく、親しくなることも大切です。

足代　僕の場合など、学生間のつながりが少く、いわゆる大学生活が際でした。その点文学部は人間的にも親しめるでしょうね。

坂東　大学へ入れば金はいらないと思ったのですが、クラブやその他の付き合で案外小遣いが要りますね。学生会館でもあったらね……。

岡本　教授と学生の話し合いの機会が少いですね。私の場合、話し合えたのはゼミのときぐらいです。官立の大学では人数の関係でそんな機会が多いと思うんですがこの点後輩たちのためにも強調してほしい。

司会　それでは職場からみた学生生活をふりかえっていただきましょうか—

喜納　入社してから入学しましたので会社の理解がありました。しかし給料が少く、物質面では苦労しましたが、精神的には恵まれていました。

岡本　相当稼がなければ学校へ来れなかったので、役所勤めをやめて豆腐屋を始めたんですよ。今でも豆腐を作るのは名人芸です。一年ほど前にやめましたが、うまくいきすぎて欲が出ちゃって、おかげで勉強の方はすっかりお留守になってしまいました。

足代　二十五年から官庁につとめていましたが、理解のある課長の下にいたのと、仕事が雑誌「統計」の編集でしたので、時間的には楽でした。それでもやはり早く帰ることが同僚の手前気がねでしたが、みんな暗黙のうちに認めていてくれました。

喜納　僕も四時には社を出るのですが、やはり気がねですね。

足代　職場の門を出たとたん自分は学生だという気分にかえるんです。それで、電車の中で本を読みますが、十五分もしたらつい睡ってしまいます。

喜納　会社ではサラ洗いが二年半も続いて、何度もやめようと思ったのですが、その度に学生だというプライドで辛棒できました。

坂東　時間の点でも会社が認めてくれて融通をつけてくれたらいいんだけどね。それから、僕の友人が大学を出た時、会社が大学出と認めてくれたといって喜んでいました。給料などの面も二百円あがったし、三年ぐらいにすれば、他の大学出と変らない待遇するともいわれたそうです。

足代　僕のところなど、卒業しても認めてくれません。夜だから昼だからと区別してもらいたくないですね。それで人から夜間部に通っているんですね、などといわれたら、僕は二部に行っているんですよ、夜間ではありませんといってやります。とにかく昼夜にかかわらず待遇してほしいです。

喜納　私のつとめている会社は大学を出たら一度退職して、あらためて試験をうけるということになっているんですが……。

関大生活の総決算を
学士の自覚もあらたに

前田　私の場合は大学に入ることがいわば就職条件になっていたんです。

喜納　大学と就職とは別問題だと思いますが、現実にはどうもね。

足代　未だに就職のこととなると国公立と私立という点でも大いに影響してきますね。

喜納　何といっても大学といえば、就職の一段階のように見られがちですが、今の学生はかわいそうだと思いますね。

足代　はじめて清水さんをみかけたときは教授かと思いました。とにかく年令差のはげしいのもいろいろ勉強になることがあっていいんですよ。一部ではちょっと味わうことが出来ませんからね。

味府　清水さんの一年当時の素足に下駄履姿が今でも印象的です。

喜納　自分をほめているようですが、何の目的にしろ四年間やりとげるまで続けることは偉いです。とにかく学校へきて本を開くだけでも大したものです。学校へきているからこそ、やれ哲学だ経済学だといって勉強できるんですよ。

岡本　学生服は学生らしくていいですね。僕は三年まで着てきましたが、第一経済的だし。

足代　僕は一ぺんも角帽をかぶったことがないんですよ。

坂東　僕も一ぺんかぶってみたいと思ったのですが、あいついゝ年をしてと笑われそうな気がして…（笑）

出席者氏名（敬称略・発言順）
文学部　坂東敏雄
法学部　岡本文男
文学部　味府艶子
経済学部　足代芳朋
経済学部　喜納政秀
商学部　前田昌夫
法学部　清水顧治郎
司会　宮川龍太郎

岡本　坂東さんぐらいか制帽をかぶるとかえって貫禄がつくんじゃないかな…（笑）

足代　学生服の場合、背広とちがって行動が制限されるから、その点いいですね。

司会　清水さんは学友会のベテランですが、学友会活動をいつごろから始められたんですか。

清水　そうですね、一年生の六月ごろからでした。当時は、二部はこちらと千里山に分れていたので、二年以上の学友会の啓蒙宣伝がおくれましたので、いろいろと苦労もありました。

司会　それではこゝらで、四年間の学生生活のうちにやってみたかったことでやれなかったことについてお話できませんか。

喜納　もっと専門的な知識を習得したかったと思います。すでに高校で三年間もやってきたんだから、教養課程の二年は長いような気もします。大学の質的低下が云云されているが、案外こんなところに原因があるんですよ。専門課程を一年からやっても良いと思うんです。

足代　その点、僕は短大の二年間と編入してからの二年間、結局全学年を通じて専門をやってきたことになります。だからつらいことはつらかったが、レギュラーコースよりも専門科目はよくできました。

味府　哲学科は二年からあります。

喜納　僕らの場合は二年からは純然たるものはありませんね。

岡本　法学部では民法、刑法の専門科目を二年から各々やっています。しかし時間がなくて無理なことはたしかですが……。

足代　これは別のことだが、春休みの長いのもかえって弊害じゃないでしょうか。勉強の心構えそのものにも大いに関係してくると思うんです。

清水　年間通じて六ヵ月間が休みなんですからね。

喜納　ほんとうは大学というところは、自分で勉強しなければならないでしょうが、やはり誰か鞭うってくれる人も必要ですよ。

岡本　語学だけはマスターしたかったんですが、遂に出来ませんでした。それが残念です。いずれにしてもやらないのが悪いですがどうしようもなかったんです。

喜納　池田教授には大分しぼられました。だが、予習、復習はやるにはやりました。でも予習は、ちょっとむづかしい。池田教授もいっておられますが、語学の教え方そのものに改善の必要がありますね。

坂東　私はクラブ活動や学生大会などには力を入れたんですが、

喜納　ゼミが最後の一年間しかなかったですが、あれなど一年から四年まであったらもっと成果が上るんじゃないですか。

学研大会が一番みにくいですね。それから学研と体育との対立はなくしたいと思いますね。予算の問題がからんでくるのでそうなるんだと思いますが、これはもっとお互いが接近し合って対立をなくするようにしなくちゃなりませんよ。私自身は極力努力したつもりではいますが、体育、学研と分けて考えるのではなくて、学友会を全般的によく運営していってほしいですね。

最新資料を満載して新刊発売。
A5判・700頁・布装函入
¥800　〒市内30
振替大阪982
広告年鑑
萬年社
大阪市東区高麗橋五丁目
電話　26局1436～9

司会　四年間の学生生活をもとに将来いかに進んで行かれますか

足代　僕は成績は良くなかったが、映画会社に合格しました。興行界には入ることは私の初めからの希望でしたので満足しているのですが、そこの会社は、主に国立大学出身者が多いので、今後、およばずながら僕は、私大特に関大出たというプライドを持って一生懸命やりたいと思います。

岡本　就職に苦労しましたので、やはり勉強とあらゆる努力が必要だということを強調しますね。たしかに二部としてのハンディキャップはあるのですが、就職に打勝つためには夜間であってもひけ目を感じないよう、自分でやるべきですやりさえすれば、先輩たちがひっぱってくれるんだから……。

喜納　貿易会社に改めて再入社しましたが、私としては大学を出たんで気分的には楽です。あらゆる面でプラスも多かったし、今後も自己のペースを守って努力して行きたいと思っています。

味府　大学院に残ります。全日制ですので土、日曜日に集中講義を受けてでも行きたいと思っています。

前田　社会に出るに当って、実社会と学校とは別の世界であるということを念頭におくべきです。社会に出たら、学生時代とちがって謙虚な態度とスマイルの精神を忘れずに、そして大いに社会を啓蒙していきたいと思います。それから就職する前に、会社の内容を知っているだけでも大いにためになりますよ。

司会　後輩、教授、職員への希望なりいい残しておきたいこともあると思いますが……。

岡本　先輩を訪ねて話し合うのもよいことです。単なる先輩、後輩の関係でなく、身を入れて教えをこうことです。学生の間は勉強、就職してからは仕事に努力することはしごく当然ですからね。とにかく学校でも社会に出てからでも努力するということ自体は同じ要素を持っています。卒業してから一、二年は緊張が必要ですよ。

前田　教務課、経理局、学生課の窓口は不親切ですね。ぜひ改めてもらいたいと思います。

足代　ほんとうに窓口の人たちはもっと親切にしてほしいですね。人間はお互いにもちつもたれつですから。

岡本　しかし、就職課の安東先生は本当に親切でしたよ。

一同　同感です。

清水　どの課もわれわれの先輩が多いんですがね。そんな要求は学友会にきていただけば良かったのに、どこでも上に立つ人はいいんだが末端が悪いのですよ。

味府　先程もいいましたが、教授と接する機会を多く持つことが一番いいのではないでしょうか。教室での講義が面白くないのですから個人対個人としてつき合うことによって、将来のためにもなることですから。

清水　そうですね。それが学生生活を有意義にしますね。

司会　長い間ありがとうございました。卒業された後も、関大の先輩として恥じぬよう一層の御健闘をお祈りします。

読者投稿

教務課に一言

私はよく次のような言葉を耳にします。「うちの学校の教務課にしろ、学生課にしろ、何んで態度が悪いんだろう。もっと暖い態度がとれないものだろうか」と。私自身もたびたび経験したことがあります。昼間のつかれで神経が非常に過敏なときには少しの事でもこたえるものです。これは職員の人たちにもいえるのであっていちがいに責める事は出来ないので学生側の反省も必要なのですがお互に窮屈な苦しい生活をやっている者同志として、もっと心が充溶れないものでしょうか。職員の人たちの中には私たちの先輩も多いと聞いていますが、それならなおのこと反省をしていただきたいのです。このようなささいな事ではありますが、ささいな事にお互が努力し合ってこそ、内からもりあがって来るところの力となって、本学の内容をさらに高める事が出来るのではないでしょうか。（文二K・M生）

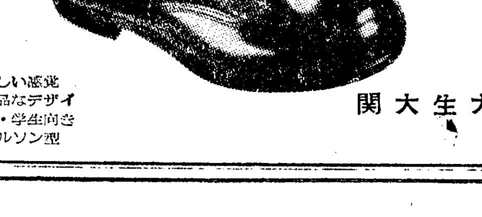
大学生は大学に帰れ

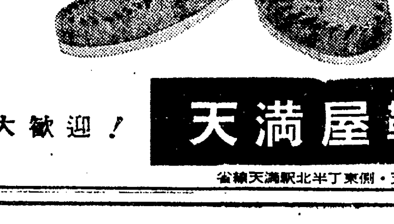
一体大学とは何をする所でしょうか、現在の大学生の中で、何人がこの質問に対して確固とした見解を発表出来る人がいるでしょうか。大学生が、大学の概念に関して、自己の見解を発表出来ないという事は、その大学生はもはや真の意味の大学生でなく、大学という一つの社会組織に支配され、そこに働いている力に利用されているのに他ならないのであります。それはもはや、そのあたりのミーハー族となんら変りはないのです。本来大学というところは真理の探究をする場所であり、最高学府として尊敬され、それぞれの国力の伸張にも大きく働いてきました。現在においても変りなく、誰れでもいう事であります。われわれの大学生活を見ると、大学に行き、先生の講義をノートし暗記して整理し、試験を受け、パスさえすれば学位が取れ、それが重って卒業となる。これだけの事のようです。どこに真理の探究があるのでしょうか、講義の内容は教授の専門的な知識の集積を分け売りの如く、話しております。それなら書物の方が詳しいのです。近頃の学生は経済状態が苦しいから本など買わずに先生の講義を、一つ残さずノートしておれば卒業出来るのです。これではどこに大学と高校の違いが見られるでしょうか、このような大学生活によって卒業資格がえられるところに大学生は大きく違っているのです。このような根本問題を深く認識すればする程、社会の動きがスピードアップしても、決して自己を失わない人間を作る機関、すなわち大学の存在意義は重大であり、ここに大学の使命がかたえるものを提示しておき、私はいう「大学生は現実は現実として率直に受け入れ、その上で、大学生は大学に帰れ」（商学部一年次H・U生）

土地つき　信用第一　家の月賦
即時着工と抽籤入札　頭金不要
現金と公庫の請負もあり
授権資本弐拾億円
札幌営業所　札幌市北一条市立病院新館前　札幌②7021
仙台営業所　仙台市東四番丁33　仙台②8060
新潟営業所　新潟市本町通八番町1357　新潟8773
横浜営業所　横浜市西区高島町1の15　神奈川④3178
静岡営業所　静岡市鷹匠町一丁目21　静岡4524
名古屋営業所　名古屋市東区新栄町交叉点角　東⑨9015
京都営業所　京都市中京区四条大宮入ル　壬生⑫3484
大阪営業所　大阪市南区地下鉄心斎橋下車三休橋南詰　大阪㉗0408
神戸営業所　神戸市東灘区阪神御影魚崎電停前　御影⑧3102
岡山営業所　岡山市上西川町208駅前通　岡山②6148
広島営業所　広島市八丁堀56八丁目堀ビル　中②1877
小倉営業所　小倉市米町1の16井筒屋前　小倉⑤2777
福岡営業所　福岡市福岡呉服町11　福岡④6318
長崎営業所　長崎市本興善町28消防署隣　長崎3429
熊本営業所　熊本市辛島町87　熊本6612
鹿児島営業所　鹿児島市大名町電停前　鹿児島4815
店舗　事務所　工場　旅館其他　土地間取の選択自由
営業案内　無代進呈　日祝無休　来社歓迎
本社　東京都中央区日本橋本町3丁目電停前太平ビル
東京営業所　電話茅場町(66)(代)9716～9(夜)9710
太平住宅

失敗のない写真は…
——シンクロ撮影で
あなたのカメラにはシンクロ装置が付いています。閃光電球と発光器だけでいつでも [illegible]
[illegible]
[illegible]「やさしいシンクロ撮影の手引」進呈、[illegible]
ライカ・ローライで推奨された…
フラッシュガンは高性能のウエストB、C、B強力発光器を
大阪市大淀区長柄浜通3ノ6　ウエスト電気株式会社
ウエスト閃光電球

学生さんに喜ばれる……
今秋の新型各種品揃い
新しい感覚　上品なデザイン・学生向きネルソン型
清楚な履き心地・明るい色彩知的な女子学生向きモツカ型
関大生大歓迎！
天満屋靴店
たばこスタンド・公衆電話設置
省線天満駅北半丁東側・天神橋筋四丁目





文学部卒業論文のテーマ

「英文学科」

英国の文人 Emily Brohteの作品研究	東正治郎
自然とワーズワス	赤塚恒夫
テニスンのイン・メモリアムについて	磯野邦男
Pickensの作品‥Oliver Twistにおける大衆性について	石井雄士
E・ヘミングウエイの〝武器よさらば〟について	岩田宏
ワーズワースの詩及び周辺考察	飯田栄司
ホーソンの「緋文字」について	内田実
ジョン・スタインベックとアメリカ映画	宇野朗
ホイットマンと彼の詩の特徴について	内海和詩
On Dicken's English	宇野成郎
ウォーズ・ウォースの自然観	岡崎昭夫
Lafcadio Hearn の創作論に於ける情緒の問題について	大谷亮
マアロウの宗教性 ―フォースタス博士の悲劇	奥田裕康
―Swiftの人物考察とその作品論評について	金沢寿雄
E・A・Pceの散文に表われたる効果・雰囲気とその私感	片山満幸
作品研究Virginibus Pucrisque ―R.L.Stevenson―	桂義生
サマーセット・モームの作品の女性	倉橋猛敏
作品研究「老人と海」	久門和夫
エミリイ・ブロンテの〝嵐ヶ丘〟について	小町幾郎
H.MelvilleとMoby Dlickについて	斉藤三蔵
近代文学	斉藤祥朗
トーマス・ハーディの作品研究について	笹井鈴子
ウイリアム・ブレイク無心と経験の歌に象徴された悲劇性について	佐藤勉
シェイクスピヤーの現代的意義について	桑田保
自然詩人ワーズワースの詩論研究	末政勝美
モームと「お菓子と麦酒」について	玉井一芳
デイケンズの庶民性に就いて	西原春男
シエクスピア考	辻和美
ワーズワースの自然観	中野一
ハムレットの性格論	中尾一雄
John Steinbeckに関する人道主義と社会主義	橋岡勝男
ハムレットの性格研究	橋本博
エドガアランポーとその作品〝黒猫〟に就いて	浜名輝志
現代英文語の相違諸原因の考察	橋本泰彦
デイケンズの世界	林まき
「ハムレット」について	林地学弘
Eclectic Methodについて	菅天間哲也
ヘイミングウエイ	細見茂治
「クリスマス・キヤロルにおけるデイケンズの描写法」について	細川典子
エミリ・ブロンテ〝嵐ケ丘〟	松下志公
サマーセットモームの作品研究	三波鋭也
デイッケンズの作品研究	武藤梨吉
R・L・スティーヴンスンの作品研究	村上英一朗
エドマンド・スペンサーの英文学史上に占める意味	森本広
ヴィクトリア朝文学と其社会的背景	山本哲也
Thomas Havay Wessex Talesの会話体に於ける方言の考察	山本利夫
ワーズワースの自然観	横尾克己
A Study of Oliver Goldsmith and his ”The Vicar of Wakefield..	和田昇

「国文学科」

「夜明け前」にあらわれた藤村の性格とその社会観	足立一郎
井原西鶴について	野草信成
夏目漱石〝我輩は猫である〟	今井芳夫
山本有三の「波」に就いて	内畑潔
一茶について一考	上田宜治
藤村作品「家」について	岡村登喜男
芥川龍之介論	大江宗治
近松の曽根崎心中と元禄時代の心中について	奥谷朝雄
二葉亭四迷の生活と作品及びその影響	岡本孝子
西鶴好色一代男について	藤田典光
非人情の文学（漱石の草枕）	川久保雅則
西鶴の作品による彼の人間性とその生涯	川原長明
万葉集に於ける〝大君は神にしませば〟について	片山央郎
直哉「暗夜行路」の解釈と批評	河原一民
太宰治論	河津啓夫
蕪村に見られるやすらかさに就いて	梶浦秋治
芥川龍之介論	工藤三郎
社会的詩人としての山上憶良の作品	楠戸秋夫
自然主義文学の中の破戒の位置	沢崎良一
与謝野晶子の生い立ちと初期作品	桜久
有島武郎の文学精神	四野俊満
漱石「それから」について	諏訪助市
南北研究「東海道四谷怪談」を中心として	関璋
葛西善蔵について	団野裕人
一茶小論	谷口又夫
「大きい」の系譜―語史的考察―	大安隆
西鶴の浮世草子について	徳田繁一
徒然草論	徳永光律
森鴎外について	中元悠
志賀直哉論	中島隆男
森鴎外と山椒太夫	野口桂
田山花袋の自然主義文学について	納庄一朗
太宰治の敗北	畠山良作
西鶴の浮世草子	針重稲造
草枕について	古庄静夫
西鶴と人間解放	藤本芳
有島武郎「或る女」の作中における女性観について	松本脩
芭蕉の研究	松岡章
鴎外について「阿部一族」の問題性	三住一
平家物語について	宮越和良
柿本人麿の研究	三井道
国木田独歩の運命観について	南脩
一茶、啄木の呼吸	山下卓也
詩集「月に吠える」「青猫」に於ける萩原朔太郎の孤独の意識について	八木修
蜻蛉日記の成立	山中淳吉
二葉亭四迷研究	薮本靖美
古典文学と志賀	矢野脩
樋口一葉考	吉崎照雄

「哲学科」

カント美学について	味府艶子
西洋古代哲学に於けるPhronesis概念について	穴田治
ジユウイ道徳的行為における概念について	池田実治
カントに於ける道徳的人格の概念について	小川和治
ニーチエツアラストの研究	於勢禎之
ゲシユクルト心理学に就いて	太田政
デユイーに於ける道徳的行為の概念	木元太
フォイエルバッハ人の宗教観とその批判について	手塚熈
ベルグソンに於ける精神と物質の関連の問題	春名勉
デユーイに於ける思考について	松岡信義
アメリカ的考えに於ける経験と教育原理の構成について	山本信季
デユーイに於ける人間性	山岡永正
HeideggerとSartelにおける無の問題	渡辺幸博

「仏文学科」

アルベール・カミュの自由と反抗	味岡敏彦
モリエールの喜劇的手法に就いて	青木繁
孤独な散歩者の夢想におけるルソー晩年の心境について	大橋信男
パスカルに於ける「人間の不安」についての一考察	本田昭

「独文科」

リルケ	若林孝子

「史学科」

スチュアート朝に於けるアイルランドの統治	相沢照子
特定村落における伊勢講の研究	荒尾成国
歴史的に観た一揆の流れ	岩崎利幸
百姓一揆	岩崎弘
北周武帝の破仏	臼井泰岳
難波の発展に寄与せる隣接村落（平野）私考	蛯子谷光幸
近世における下層階級	岡作美
広島県佐伯郡上水内村の近世について	小田安隆
続日本紀に現れた行幸に関する一私見	大西守
明治の近代化に於ける文学	太田清之助
鎖国の形成とキリスト教	児玉道生
中世の村落について	瀬尾重喜
源頼朝の京都経略について	山中孝史
天保の改革	田辺照光
ヘンリー八世の修道院解散について	津熊良夫
荘園の成立とその歴史的背景について	戸部多慶士
近代日本の労働者の動き	中島昭一
三・一運動について	西畑利彦
農村における封建制の歴史的考察	福島守
英国政党政治の起源と発展	福原利
地租改正について	前田健郎
魏志倭人伝にあらわれた倭国の構成と文化	水久保精一
中世イギリスにおける農奴解放の過程	八木慶
英国における科学技術がもたらした産業革命	山根弘徳
母性愛からみた上代人と平安人	山畑誠代

「新聞学科」

広告媒体としての地方紙	荒谷裕
新聞広告における文案図案の研究	今中正幸
近代広告の在り方	岡田久男
日本映画の傾向とその影響	岡田弘
新聞の企業と価値	大空正治
広告進化論	河原章
マス・メデアと教育について	梶原竹夫
ラジオ放送における広告の研究	岸田禎祐
テレビジョン	小谷信隆
現代新聞の客観性―主として経済記事について―	酒井米三
都市美と広告について	佐藤泰生
マス・コミユニケーションと教育との関係	清広久
案内広告のあり方について	添郷栄
刑法上における新聞の諸問題	中島浩
広告宣伝からみた医薬品	坂東敏雄
新聞における広告の地位	樋口貞夫
経済政策と広告宣伝	堀公明
パブリック・リレイションズ	真鍋勝也
言論及び出版の自由	松本上治
新聞学上より見た社会心理学	横山裕之
マス・コミユニケーションと教育	吉田弘

「東洋文学科」

荀子の性悪論と教育論	岩本守
魯迅における近代意識について	垣内広光
孫子（兵法）の処世応用	村上弘次

クラブ活動一年間の解剖

目立った地道な研究

一般学生との関係が疑問

三月の声を聞いてからすでに十五日、あと十数日で昭和三十年度も終ろうとしている。この一年間、新入部員の獲得にはじまり、夏期休暇、大学祭、文化祭などを通じて各クラブはどのように活動してきただろうか。やがて来る新年度への息吹きを身近に感じる現在、過ぎ去った一年間のクラブ活動をふり返り、あげ得た功績、反省すべき点などを列挙しつつ、新しい年度における、より一層の発展を願って、編集したのがこの〝クラブ活動一年間の解剖〟である。

学研部

今年は相当活発な活動が期待できるのではなかろうか、と新年度のはじめに各方面から注目されたのが学術研究部であった。というのは入学式当日に最も多く、そしてはなやかに部員募集をしていたのが学研の各部であり、過去一年間地道な研究活動にはげんできた。質量ともに豊富な二年次生の中堅部員を有していたのも学研であれば、クラブ活動の死命を制するときていわれる予算会議に対する対策、資料をいち早く整えていたのも、これまた学研だったからだ。このように好調なスタートを切った学研だったが、その後一年、果して予想通りの成果が上っただろうか。

六月中旬の予算会議、学生大会から夏期休暇前後までの学研各部の結束、活動は実に見事だった。だが、第一回学生大会のころから生じていた学研内部のガタつきは、石井学研部長の辞職、退学によって表面化し、後期においては再び〝殻にとじこもった学研〟の感を強くした。

次に各部の活動をふり返ってみると、前期において前年度から引き続いて学研部長を出していた英文研は学内英語弁論大会、夏期休暇中の三重県宿田曽中学における教育研修などを通じて新人の台頭目ざましく、石井君の去ったあと、藤原部長（法二）を中心によくまとまっており、日常のディスカッションも熱心にやってはいるが、一般学生にはあまり親しまれておらず、しかもいま一歩、迫力に欠けるものがあり、物足らなさを感じさせられた。

学研の花形とまでいわれた社研も最近は地道な研究活動に重点をおいているためか、あるいはリーダ格を執行部に送り込んでいるためか、あまり目立った活動は見受けられないが、公開講座、研究会を比較的熱心におこなっていた。夏期休暇を利用して農村実態調査をしたが、これは一つの貴重な経験にはなったものの、活動上必ずしもプラスだったとはいえないのではなかろうか、この部も英文研同様に新人の充実にみるべきものがあり、来年度の活動に期待したい。

法科の関大とまでいわれている本学に、法律を研究する部がないのは……ということで設けられた法研だが、生まれて二年半の間にずい分大きくなったとともに、部の性格が最初の目的とは相当かけはなれてきた感がある。部員が研究熱心なのは事実だが、司法試験合格のための受験勉強グループ的な存在は、予算会議、第一回学生大会に示されたあまりにも政治屋的なかけ引きとともに学友会におけるクラブとして再考すべきものではなかろうか。

一時は社研などとともに活発な動きをみせていた政経研も、その後は全く振わず、経営研との共同調査にやや活路を見つけていたものの、本来の研究活動も十分な成果があがっていないようだった。

経営研は一般学生間へも呼びかけて毎年夏期休暇中に経営学講座を開いているが、この催しは一応成功しているようだ。しかし毎年計画倒れに終っている珠算学校の開設については、政経研との共同調査の研究方法とともにこの際、一考すべき余地がある。

近文研は毎年秋に国文研と共催で、朝日新聞社講堂を借りて著名人による文芸講演会をおこなっており本年度も荒正人氏を招いていたが、折角の試みも学生間への宣伝不足で、多額の予算を費しながら一般学生から浮き上って一人相撲をとっている感があった。来年度はもう少し地についた研究活動を望みたい。

一方、文芸講演会の片棒をかついでいた国文研は前半、部長、会計がともに女子である唯一のクラブとして、その活動が注目されたが、夏期休暇を中心に数回研究会をおこなったほかはあまり成果もあがらぬまゝに、部長は梅野さんから川久保君に交代している。

夜学生の自主映画製作の話で一時の停滞をとりもどしたかの感があった朝文研も、映画の話が立ち消えるとともに活動も再びにぶり、文化祭に研究活動ならぬ朝鮮舞踊で好評をはくした以外は特筆すべき動きがなかった。

活動しているようで動いておらず、研究していないようで研究しているという感じのするのが史学研。後期に学研部長をやった前田君のワンマン・クラブでは成果を望んだとしても無理だったかもしれない。

創作研は部の名前があるだけだし仏文研、哲学研、東洋文研、独文研などの各部は文学部の各学科ごとにまとまったという感じのするクラブにすぎず、研究活動といってもその学科の学生には縁遠いようなものであり、研究成果よりも、クラブとしての存在意義がまず再検討されねばならないのではないか。

文化部

学研や体育部と異なり、各部によってその性格がちがうので、文化部として一律に論ずることは非常に困難なことではあるが、過去一年の共通した特徴としては、活動が従来の独善的なものから一般学生を対象にした地味なものになってきていることであって、これは非常に喜ぶべき傾向だ。しかしその反面、発展的な活動が少くなりスケールの小さな、しかもイージーな方向に進んで行ったことも見逃せない事実である。

消極的すぎる動き

関西における学生演劇界の王座を誇っている学窓座にしても、この傾向があることは疑うことのできないところで、文化祭に木下順二作の〝山脈（三幕）〟を上演したほかは、夏期休暇中に吟詠部、リーダー・クランツとともに、昨年度に続いて山田村弘済院へ慰問公演（きつね妻）をしたのと、大学祭の前夜祭に〝奇妙な青春〟をごく軽く演じたのみで、BKで入選した放送劇〝遅刻〟を合わせても年四回。回数はともかくとしても、あまりにもその活動がイージーに流れすぎているといえるのではないだろうか。安彦君などの有望な新人が出てきたことは学窓座にとって大きな成果だったが、この一年間、河野部長の性格にもよるのだろうが、消極的にすぎた感がある演技の面でも丸岡君一人が力みすぎては他の新人が育たない。もっと新しい部員の活動できる場を作り上げ、いつまでも古いものでお茶をにごさずに、活発な活動をしてもらいたいものだ。

日頃の熱心な練習がものをいってか昨年度からめきめきと腕前をあげてきているのが吟詠部だが、この部も文化祭でその成果を一般に示したほかは、前記の山田村公演に加わった程度で、あまり活発な動きを見せていないのはどうしたことだろう。師範の謝礼とテキスト代だけに予算を使うのでは全く能のない話だ。熱心な先輩がいるのだから、その人たちの協力をえてもっと積極的に練習の成果を発表してはどうだろうか。

レパートリーが狭い、声量がないといわれてきたリーダー・クランツも、最近では喜々とその悩みを解消しており、昨年はフォーク・ダンスの催しを主催するなど余裕のある活動ぶりを示していたが、やはり何か物足らぬものを感じたのはどういうわけだろう。あまりにも洗練されすぎて？きれいごとばかりにとらわれるので、かえって伸び悩んでいるのではないだろうか。例年数多くの新入部員があるのだから文化祭と大学祭の前夜祭だけが発表の機会でないということを十分念頭において活動してほしかった。

予算会議でその使途と活動が問題になった部として軽音楽部と映画部があるが、このうち軽音楽部は部室での練習のかたわら、近くの天六酒場をはじめ、ビヤホールなどにアルバイト出演してせっせと外資導入に力を入れていたが、一般学生の前にその成果を問うたのは文化祭と大学祭の前夜祭の二回だけ。練習熱心なのと、文化祭のバラエティを高めるものとしての人気はあるが、スインガーに人を欠くためか、スリーバンドのうちでも、特にスイングバンドが練習の割合に効果的でない。全般的に線が細く、あい変らず全学生のためよりも自己中心に動きすぎた感がある。

これとは対照的に部活動の性格を一変したのが映画部だった。昨年度は部員による名画観賞会にその主力をそそいできたのだが、本年度は一般学生への名画紹介、特別割引券の斡旋などにも相当力を入れていたのはよいことだった。ただ九十五円の割引券を一部映画部への負担金の捻出のためというので百円に売って、少数ではあったが、学生間から不評を買ったり、35ミリでの映写を条件に予算をもらいながら16ミリを使用するなど不明朗なこともあった。しかし活動自体が地についてきたのは喜ばしい傾向だ。

学内写真コンクールを催すなど着実な歩みをみせている写真部は部室の完備によって、最近は内部の質的向上に重点をおいているので、以前にくらべて技術面では相当進歩したようだが、やはり成果発表の回数が少なすぎるのが玉にキズ。食堂で作品展示会をやっていたのはよい試みだ。撮影会もしばしば催しているが、これなども費用の関係もあるだろうが、近くで、一般学生も参加させておこなえばもっと部活動が一般化しただろう。

昨年度は学窓座の下請け的存在で、あるかなきかの有様だった文芸部も、一年次生が中心になって再建するというので、注目されたが、結果は見るべきものがなかった。

望まれる学内活動

体育部

地味な研究会活動が主体となる学研費用などの関係上、成果発表の機会が限定されている文化部に比較して、日常の練習そのものが一般学生の目に入りやすく、しかも割合いに派手な面が強調されるのが体育部であるが、一年間の活動を通して、体育部を眺めるとき、二、三の部を除いて全般的には、練習や合宿はよくやっていたが、果して成果が上ったのだろうか、一般学生とのつながりはあるのだろうかと疑問をいだかずにはいられない。一部の体育会と一緒にならなければ十分な成果が得られないのはわかっているが、全ての点で一部にオンブするようなことなく、もっと自主的な活動をしなければ……ということを痛感させられた一年間だった。

この点では関西六大学の二部野球部によって結成された関西二部大学野球連盟に加盟、リーグ優勝している軟式野球部の存在は特筆すべきものがある。春のリーグ戦では十勝二敗の好成績で優勝しており、練習球場のない悩みも部員のチームワークでカバーしているが、練習風景が見られぬためか、部員だけが他から孤立しているような感じで、一般学生にはあまり活動が知られていないという嫌いがあった。

体育館に部室をもち、また練習も熱心にやっている空手部は、春の体育館での合宿の成果として五月末の昇段審査試合では、三名の有段者を出し、大いにその気をはいたが、一般学生間に好奇の眼は向けても、盛り上げようという空気が見受けられなかったのは、どうしたことだろう。部員の質的向上とともに一般学生を土台としてのクラブ活動だということを、この際もう一度考えてほしい。

同じく体育館を根城に練習をしているのにフェンシング部があるがこの部は最近の二、三年どういうものか練習熱心なわりに活動がにぶく、この一年間をふり返っても四月に京都でおこなわれた新人戦で内藤君が入賞したのと文化祭第二日目に存在を示したのが目立つのみで、あとは全く音沙汰なしといってもよい有様。かって示していたようなファイトをもやして活動しなければ一般学生から遊離する一方だ。

剣道部もフェンシング部と同じような一年間をすごしてきているがこの部は文化祭で吟詠部と共演して剣舞に新しい道を求めていたのは注目される。試合にのみ終始することなく、一般学生とのつながりをこのような方法で持つのも二部体育部として新しい行き方であろう。

日本の拳法をあみ出したのが本学であるが、この一年間、拳法部は全く活動らしきものをみせず、創始者の後裔としてあまりにも低すぎる有様は、心ある関係者のまゆをひそめさせている。このような状態が続けば部の発展はおろか部そのものの存在すら危ぶまれる。

学内における評価よりも学外における名声の高い部、というよりは個人を擁しているのが卓球部である。部長の広田君は全日本学生卓球にランキングされ、各地における試合に出場しているが、学友会における部としてのクラブ活動は全くゼロ。全学生のための活動であって、はじめて強力な支持がえられるのだが、現在のところ逆な行き方をしている感がある。

合宿、練習はしていたようだが、その成果が全く知られていないのが水泳部である。活動期間が短いとはいえ、あまりにも目立たず、一般学生からかけはなれすぎている。

山岳部も一体、何をしていたのかわからないし、馬術部などはただ単に予算を渡して一部の馬術部へ寄生しているようにさえ見受けられた。

体操部、バレー部、スキー部は名前を残しているだけで、予算の配分もなければ、活動もなく、消滅の一歩手前にある。

応援団

体育部の応援団だけでなく、全学の応援団として学友会の縁の下の力持ち……を目標として活動していたが一般学生の目にはどう映っただろうか。年二回の合宿をおこない。野球や各闘試合の応援に参加していたが、二部応援団からの出席は昼間勤務の関係から極く少数で、わずかに大学祭、文化祭の応援団乱舞において、一般学生とつながりをもっていた感がある。従来のいわば右翼的存在を払いさろうと努力しているのは喜ばしいことだが、いま一歩進んで一般学生に理解されるような活動を期待したい。

弁論部

（全関西）高校弁論の主催、学長杯、末川杯の獲得、学生国会での活やくなど、個別機関に昇格してからの弁論部の[illegible]ましいものであっ[illegible]の九州遊説をはじ[illegible]おける遊説、街頭[illegible]果を得ているもの[illegible]る一般学生との接[illegible]ものがあり、五月[illegible]論大会のようなも[illegible]しどしおこなって[illegible]き上らないよう努[illegible]

女子同好会

[illegible]年になるが、この[illegible]のは文化祭におけ[illegible]劇〝洪い靴〟だけ[illegible]ては全学のフェミ[illegible]ふるあたたかい援[illegible]におけるユニーク[illegible]とが期待されたが[illegible]く期待を裏切った[illegible]性格、目的がいま[illegible]のはどうしたわけ[illegible]までは発展する[illegible]う気配の方が強く[illegible]起をうながしたい[illegible]

ルポルタージュ

〝私の場合〟

勉強を続けさせてくれる男性なら……

文学部一年次生T・Kさん（20）の場合

席につくなり「書いていただくようなこと、あまりないんですよ」とおっしゃる。結構！その何もないような、平凡な生活が是非お聞きしたいのだと説いたら、ぼつぼつお口がほぐれてきた。

昭和二十三年に満州の大連から一家と共に引揚げてきて、一旦広島に落着いたがお父さんの仕事の都合で、中学校の卒業を機会に大阪に移ってきたとのこと〝大阪にくるのがいやでいやでならなかった〟という彼女は、それから扇町第二商業に入り、今の勤めは二年の時からづっと続いているそうだ。北区Dビルのある法律事務所の事務員兼お茶くみが彼女の仕事「先生（弁護士のこと）自身が非常に苦労して帝大を出ていらっしゃるので、とても私の立場を理解して下さるんです。その点では私なんか恵まれている方かな」

仕事の内容は、タイプと一般事務、彼女の他に男子事務員が一人いるだけなので、相当仕[illegible]が重いそうだが、それで[illegible]まごつきがちであった[illegible]関係の書類も、この頃で[illegible]ばけるようになったとい[illegible]うらから、相当の頭の[illegible]どえる。でもこの間の試[illegible]ようど関係している会社[illegible]にぶつかって、勉強どこ[illegible]く、ぺ[illegible]たそう[illegible]ら理解[illegible]っても[illegible]ぎるこ[illegible]ないこ[illegible]どうし[illegible]が一義[illegible]てしま[illegible]」という彼女の言葉は、[illegible]二部に学ぶ学生全部にも[illegible]とであって、容易に割り切[illegible]問題なのであると考えさ[illegible]

これまでに辛かったこと[illegible]問に「私は元来体が弱く[illegible]長いことわずらったこと[illegible]んですから家のものに反対[illegible]んですよ。でも大学に進[illegible]私の念願だったので、が[illegible]に入っちゃった。緊張し[illegible]送っていたら、人間[illegible]気しないものですね」と[illegible]げである。それでも去年[illegible]わずらって、一カ月ぐらい[illegible]たそうで「辛かったといえ[illegible]ことぐらいかな」という彼[illegible]天的にも見えるが、初志[illegible]るところなど、なかなかの[illegible]持主と見うけられた。

失礼ながらサラリーは？[illegible]と「これ新聞にのせないで[illegible]断って打ちあけてくれた。[illegible]せん私の声をあげると、彼[illegible]入れているし、勤め始め[illegible]ごく少なかったのよ、と[illegible]けた。この辺に生活と勉[illegible]させるために努力して来[illegible]足跡がしのばれてほっと[illegible]者が女性なのでいろいろ[illegible]んだが、学生女房のこと[illegible]のぼった時、「勉強を続[illegible]くれるような理解ある男[illegible]ら、在学中に結婚する[illegible]ます」と彼女…、近代女[illegible]んをちょっぴりのぞか[illegible]た。

（逆又真也）

世相は容姿を生むが、容姿は又世相を生む

誰もが乞い望む平和な国、住み良い国、楽しい国、而し日本の現実は？……先づお互にキチンとしたみなりをしようではありませんか、救いが感じ取られる筈です。学生の皆様の為に創った丹頂ヤンガーチツクは、其意味で大きく役立ちましょう。御登校前コレで御整髪の仕上げをして頂く丈で充分です。（100円）

丹頂ヤンガーチック

金鶴香水株式会社

語らいはビーチパラソルの下で

Most Luxurious coffee room in Kwansai
1st Floor Latin American Music
2nd Floor Classic

阪急三宮
音楽喫茶 コペン
（TEL③800）

祝御卒業

御卒業後も皆様の食堂へ是非御立寄り下さい
四年間皆様に親しまれた学内食堂
天六食堂

ポマードの決定版

毛髪は若さのシンボル
いつまでも若々しい毛髪を保つには常によいポマードをお使い下さい。

100円 150円 200円 300円

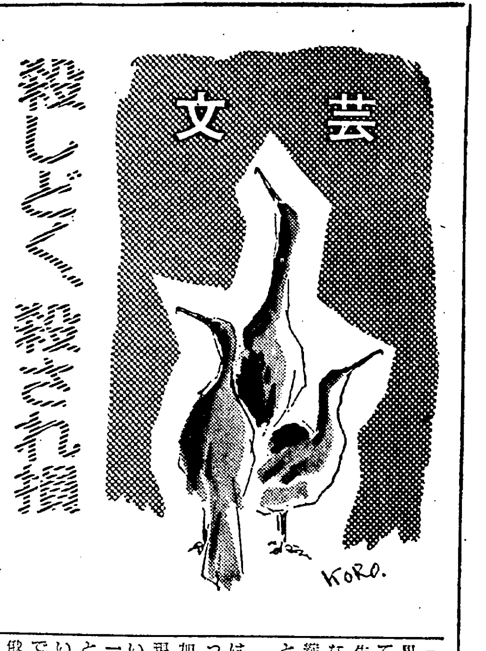
バリー好みの粋な香り
シボレーポマード

香水級の香料配合　シボレー養毛トニック 200円

きつね丼ば
はつせ
名物 助六鮓
大劇東側
電話 北(64)2267

学生服なら専門の
大学校・中学校・小学校専門
ベビー洋服店

CAMERA
D.P.E.スピード仕上
最新の設備・最高の技術
小西写真機店
天六京阪駅前
電話堀川⑧1431・7844番



文芸

殺しどく 殺され損

◇……死刑廃止論について……◇

大学新聞の編集氏から死刑廃止論について何か書くようにとの注文であるが、私は死刑について特に研究をした訳でもなく、その当否について学問的な見解を述べるような柄ではない。

しかし、最近わが国を始め、英米等、国の内外をあげてこの問題が一部の人達によって取上げられて盛んに論議せられ、そのため一般世人の注目と関心を惹いているようで、これについて、私は私なりの感想がない訳でもないから、その感想の二、三を記して責をふさぐことにしたい。

いうまでもなく、死刑廃止論は何も今日に始まった問題ではなくその歴史にはすでに古いものがある。然るにわが国において最近ことに新しくこの問題が論ぜられるようになったのはどうした訳であろうかと考えてみるのにどうも一昨年アメリカにおいて行われたローゼンバーグ夫妻の死刑執行や最近最高裁判所で行われた帝銀事件、三鷹事件、松川事件等の各死刑言渡判決等がその直接の機縁になっているのではないかという印象を受ける。わが国にもアメリカにもこれらの事件以外に死刑の判決を受けたものは相当あるのに、それ等については一向問題にならず、右のような特殊な事件を契機として問題が提起される処に何だか割切れないものを感ずるのは、単に私一人ではなかろうと思う。

それはそれとして死刑廃止論の論拠として、個人の生命は最高裁判例の指摘する如く〝全地球の重さよりも重い〟従って国家といえども被告人の生命を奪うことは出来ない。国家自らがまず死刑を廃止し、人命の尊重すべき所以を示すならば、自然国民の間に人命尊重の気風が生れ、殺人の如き凶悪な犯罪はその跡を絶つであろうと説くものがあるが、死刑を廃止することが果して人命尊重の思想を植付けることになるであろうか。私はこれはむしろ本末顛倒であって、却って人命軽視の風潮を助長することになるのではないかということを恐れる。個人の生命は尊貴なもので、何物を以ても償い得ざるものであればこそ、一国の刑罰制度においてはその精神を裏付け、国民一般の生命の尊厳を保障し、これを担保するに足る最高の刑罰を規定する必要があるといわなければならない。これなくして、徒らに犯人の生命尊重のみに捉われ、被害者の人命や社会秩序を顧りみないのでは、俗にいわゆる「殺しどく、殺され損」という結果を派生することになって、却って善良な被害者、すなわち国民の生命を軽視することとなるのではなかろうか。かくては正義は破綻、社会秩序の維持は極めて困難となるだろう。

また死刑にはそれほどの威嚇力はない。これを廃止したからといって、それがために凶悪犯罪が増加するということは決してない、現にある国にその実例がある。早い話が死刑がなくなったから俺も一つ凶悪犯罪をやって見ようなどと考える人間は恐らくあるまいというようなこともよくいわれる処であるが、この点についても私は俄かに賛成し難い。成る程相当な教養を有し、高い理性を身につけた人間のみの社会を想定すれば、そのようなことがいい得るかも知れない。しかし教養の低い、素朴な一般国民を対象に物事を考える場合、私の経験に徴し、必ずしも不安がないとはいえないような気がする訳である。

以上はホンの思い付きの私の感想であるが、私とても刑法進化の目標として、死刑廃止の旗印を高らかに掲げ、その目標に向って前進しなければならないものであるとは考えている。国民の知性と、社会環境を向上し、死刑というような刑罰を必要としない平和な文化国家を築くことは、私達の理想であり、私もそのような国家の実現を希うことにおいては決して人後に落ちるものではない。しかし現実の問題として現下わが国の諸事情を直視すると、死刑を以て臨まなければこれが防圧に対処し得ないような凶悪犯罪が全国各地に頻発しているのであって、かかる事実に目をおおい、徒らに理想に走り俄かに死刑を廃止するが如きことは到底その時機ではないと考えざるを得ないのである。

（まち・しろう　大阪地検検事）

やぶへび

橋本文朗

〝関大がスッポン（スポンサー）〟というので、まず私は驚いた。〝夢の調べ〟と〝夜の名曲〟……どっちにしても音楽番組で、教育そのものにあまり関係はない。私は〝夢の調べ〟の製作担当者なのであると同時に、私は関西大学の学生である。とすると私が番組を作り、それを放送することによってスポンサーたる関大は会社に料金を払い、その料金の中のいくらかは、私の人件費として給料袋に回って来る。その中から私は関大に対する授業料を払うのである。そしてその授業料は私の担当している〝夢の調べ〟の放送料の一部として、もう一度私の勤めている会社へ舞い戻って来るだろう。そしてまた給料へ……。一体誰が〝もうかりまっか?〟

とも角不思議な因果関係を私は体験していたのである。その上、会社の収益と、自分の行っている学校が〝宣伝らしき行動〟をとる商業性にはさまれて実のところは何か割り切れないものを感じていたのである。

私立の学校がひとつの企業体として考え切れない私が、あるいは現代から遊離しているのかもしれないが、その〝C・M（コマーシャル・メッセージ）〟に〝風光明媚〟をうたうところで私はいつも錯覚を起しかける。七十年の伝統も、自由の学風も、それらの言葉が観光地の案内文を連想させるからである。

学校が放送番組を提供することになって果して優秀な学生を育てることが出来るかどうか。それは疑問である。単に収容学生の人数を増やすだけのことなら教育には何等関係のないことで、学生からとやかくいうべきでない。これは学校経営上の問題であろう。しかしそれに要する費用が私達の授業料の一部で賄なわれているのならもう少し有意義な用途はなかろうか?

〝夢の調べ〟は軽音楽〝夜の名曲〟は純音楽、音楽も結構だが、学校自体とは遊離したもので、誰がスポンサーになっても一向不変のものなのである。番組の最初に鳴る鐘も天六学舎の学生にはそうぞうしいものである。現在在籍する学生の心理や、希望も調査して学生の本質を少しでも汲んだ番組を私は望みたい。

なお〝夢の調べ〟の最終回、詩人谷川俊太郎の構成によるミュージカル・コンクレート〝ヴオーカリズム〟が民放祭参加作品として選ばれ、近く審査を受けることになっている。

（はしもと・ふみお　新日本放送製作部勤務）

研究室（3）

経営意識の近代化を

小売商の問題と取り組む

商学部　山崎紀男教授

私の研究ですか、そうだね目下研究中の小売問題についてでも話しましょうか。私の主義として人があまり手をつけないものをすることにしているのですがね、この小売問題の研究も、わが国ではまだこれからといったところです。小売商の近代化が最も発達しているのはやはりアメリカなんですが、これはイギリスに連なっているもので、産業革命のあと、工業が経済原則に従って比較的早く近代化が進み、それから約百年を経て、はじめて小売の近代化の時代に入ったのです。そして社会の発達と進歩のテンポが早くなって来た、この七、八十年の間で百貨店、消費組合、などの規模拡大化が進むにつれて今日の姿になったわけです。

ところで日本の場合、それから七、八十年も遅れてアメリカ、イギリスをただ単に模倣して近代化されて来たような訳ですから、実は外見ほどに内容が伴わないんです。だからまだ〱あれやこれやと近代化から取残されたところが多いのですよ。もちろん社会構造の相異を見逃すことはできませんが…… 英国では一軒の商店が他に多くの小売の支店をもたなければ経営がなりたたない。これに反して日本では小売の支店をもったものが少い、という現象は産業形態が問題となってくるのですが、日本の社会構造が一面非常に進んだところがあるかと思うと、他面多くの遅れた面もあって、経営が経験を中心に進められることが多く、経営者が万能でないこと、すなわち、近代化が十分に行われていないことに相異が生まれるのですね。従って、如何に店舗を近代化し経営の形態を形式的に法人化してみたところで、生活意識、経営意識の近代化がただちにやり難いところにその主因がみられます。ともかく非常に立遅れた、日本の小売商を名実ともに近代化していくためにわが国は今後、何年間に実現しうるかを理論的に経済の流通を追及する研究課題は興味深いものです。いろいろと官庁関係から調査を引きうけやっていますが、何しろ小売商の取引対象が一般消費者であってみれば、ずい分不合理な要素に制約されることが多いんです。商店街の調査からみても、小売店の売上げが変則的で、消費者が計画的な買物をしていないことが明らかですし、全く非能率な生活態度が説明できます。まあ、商人よりも消費者の方が非科学的な考え方をしているといえます。

ヨーロッパ人は合理化された個人主義に立脚していて、権利と義務をはっきり遂行しているが日本人には合理性が欠けているので生活自体が判然とせず、万事が御都合主義で、他人に依存したがる。無理に合理性を押しつけると小売人と消費者が一致しないようになってしまう。いまの新生活運動にしても、具体的に発展しないのはこの点に原因がありますね。暇をつくってから合理化するのではなく、むしろ仕事を与えてから運動を展開すれば、無駄がなくなり、合理化がスピィディになるのですが……

元来人間は遊ぶことが好きなのだが、働くことによって合理的になるものです。だから、家庭が合理化されていないで、各家庭での消費生活はまちまち……合理化されないのも当然です。小売商には零細な店が多くて店が大きくならないのは資本の蓄積が少く最も資本の充実したところから流通する金融資本にたよっているところにあります。

しかも大企業の面からマージンがふさがって小売商人の利潤が常に不安定になる。だから商業の単純化ができない限りブローカーが存在するものですが、大産業の発展によって全国的に商品の流通が一手でなされれば、消費者の生活は合理化されていくかたわら中小企業にも便利がよくなるわけですたとえば化粧品にしても表日本と裏日本とでも季節、土地、環境によってその品が異ってくる。これらを政治的にみても、わが国では生活基準の一定化がやりにくいんですね。すなわち、各個体たる家の合理化が前提条件となるわけです、アメリカの場合は大企業によって、消費者と小売の配給組織が合理化されているので、ある面においては男は自分で選んだ洋服を身につけることができず、半ば上から強制されて、同じような服をみんなが着ざるを得なくなる。婦人の場合はマスコミの影響で指定された流行を追っていくというように生活に単調な面もみられますがね。ところが日本はどうでしょう。技術の面ではある程度、発展しているんですが、その精神においては、またまだおくれていますよ。

競争商品が多すぎるのに社会的な分化が行われていないし、サービス業面についてもまだ研究ができていないのですね。アメリカでは小売の企業調査がかなり詳しくなされていますが、わが国ではその数字がつかめないのが残念で、調査のために各地へ行くと面白いことを発見できます。それは味覚社会学とでもいいますか、都市によって食物が変ってきます。つまり京都のような消費都市は甘さだけでなくこったものとなり、商都大阪では食物は高くてまずい。喰いだおれというのはウソですよ。尼崎のような産業都市はまずいが、安いものが繁盛するようになるんですね。要するに、小売の研究は生産における資本の集中と、資本の国内市場拡大への投入にかかっています海外市場との関係も考えられますが、それとは関係なくとも、大衆の生活意識の近代化がまたそれを促進せずにはおかないでしょう。まだ研究中なので判然としたことは話せませんでしたが、これからは大学の講義においても生産を中心とした時代の理論から、消費を中心とした理論へと移行せねばなりませんね。

教師の憂鬱

覚田知義

（一、手紙）

試験が近づくと往復葉書が来る。「範囲と出題傾向と参考書のお知らせを云う」というのである。「たね本」があればついでにというのもある。病気でここしばらく講義を休んだからとか、アルバイトで講義に出られなかったからという理由が前に書かれている。尤も正直なのは講義に出てないが試験はうけたいと書いてある。どうもここまで書かれるとその心臓や頭を疑うまえに僕もこの一部分でもいいから欲しいと思う程である。一つ一つ返事を書くこともあるまいと思ってそのままにしておくが、往復葉書なのでちょっと気になる。五円のことであるが返事をせぬとただでとったと思はれるのもしゃくであると思うようになる。敵もさるものでちゃんと宛名を書いて来るものもある。「ほかへは使わせないぞ」というのかしらとも考える。これ位の手数は省いてやる、というのが本音であろうがここでどうせ数は二、三通から四、五通だからと思って書いてしまう。書いてから実にいまいましい奴だと思うがもう仕方がない。

試験が終ると今度は点数を知らせろというのがくる。これは前にこりて無視することにきめる。中には仲々執念ぶかいのがあって、前に手紙を出したのに返事をよこさんのは何事だというのがある。手紙というものは必ず返事を書かねばならんものとみえる。そこで事務室まんと思って教務課で聞いて呉れと、返事すると教務課で聞けないから、教務課に行けないからわざわざ手紙を書いたのだという返事がまたくる。手紙の方が市電より安いためかどうかしらないが実によく書いてある。こうなるとこっちの頭も変になってきて遂に研究室に来てくれといってやったら、のこのことおいでになった。話をしてみると案外おとなしいのにまたびっくりである。これはある中学校の先生だったので再びびっくりである。こういうのが例外で在職中一回で助かったがこれはちょっとひどすぎる。

試験期は採点のほかに、こういったことで実に憂鬱になることが多い。試験に関しても問題があれで適当だったのであろうかと、成績が悪いと講義の仕方が悪かったのではあるまいかと反省させられるほかにこうした悩みがでてくるわけである。元来僕は手紙を書くことが大嫌いである。普段の用事でも葉書とか手紙がきらいで出来るだけ足ですませることにしているためにより一層そうしたことがいやなのかもしれない。しかし人からたよりをもらうのはいたってすきな方である。甚だ勝手な話であるが。だから前に書いたような手紙をもらったときに講義に対する疑問とか質問の手紙だったらなあと思うことがしばしばある。そも考えてみれば十人なり百人なりから一斉に送ってこられたらこれも大変である。目下のところ、全学部をあわせると五百人位になるから半分かかれても大変でちょっと返事にこまる。とすれば出来るだけ学校で接触する機会があればこうしたことも解決するのではないとも思われる。でも手紙を見たりするとあまり学校へ出てこない人もあるらしいし、またごく四五人の話であるから、どんなに接触してもそれはやはりいつまでものこるのではないかと考える。

ある人にこの話をしたら「これはどうしようもないさ、日本の大学はどこでも入ってしまえば極楽でエレベーターみたいなものだかね。もっと入ってこからも厳重にすれば解決するよ。それでなければうんと少ない十人か二十人の講義をやることだね」といっていた。ともに不可能に近いことである。そして来年度もまた手紙をかかされることと今のうちから覚悟をきめておくことにした。唯願わくは数が一枚でも少なからんことを祈るのみである。

（といだ・ともよし・文学部助教授）

書評

身近かな問題を提示

「学生の疑問に答える」

本書は比較的有名な十大学の男女学生たちが、法曹界の大御所、田中耕太郎博士を囲んだ時の自由な話し合いを、巧みな会話形式で編集し、読み易い格好のポケットブックとしている。

論題の中心は、現代の青年に共通な問題、たとえばヒューマニズムの本質から始まって教育、恋愛、道徳、戦争、死などに触れながら、政治の問題にも論及するなど話題は豊富だが、それぞれの主題における指導性の一貫性はあまり望み得ないようである。これは、博士が〝はしがき〟で述べているように「若い人々と話し合う機会に袴を脱いで裸で語ることにつとめたが政治には具体的にタッチできず、率直に答えられない」といった現在の複雑な博士の立場に由来するともいえよう。

しかしながら、法と権威と政治の裁判関係については、さすがにゆきとどいており「政治や経済は真善美の世界より一段下の次元に位するものであり、政治的であることは人間の完成、真のヒューマニズムの進展に好ましいことではない」とここでは〝雑音〟問題とは無関係に語っているなど興味深い点が多い。

一部、書中よりその美しい言葉を紹介すると

質問者「人格の完成の内容は、どんなものでしょうか」

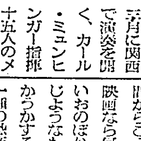
田中「我々はいま自由をもっている。その自由は真善美の実現のために奉仕しなければならぬ。人間はなぜに世の中に生れて来たかというと、真善美の理想をこの世に実現することに参加することになる。個人については善を自己の中に実現することなのだ。宗教的にいえば神の国を認め、それを実現してゆくためここに人格の完成があると思う。そういう理想があってこそ人間は他の動物と違っている。それが真のヒューマニズムで、人間が勝手気ままに本能に従って生きるのは真の自由ともヒューマニズムともいえない」

もちろんこれらの言葉は幾度も語りつくされてはきているが、博士の学生に寄せようとする温い理解と、大人の善意には注目すべきであろう。

「学生の疑問に答える」こと自体が至難なもので、そこに「現代」がつけば、なおさらのことといえようし、これゆえにこそ現代学生の不満が、一冊の本のみによって解決されるとはいい得ないであろう。

問題は、本当に登場した同じ世代に生きる学生諸君の在り方と、読者がこれを如何に受けとるか、ということにあるのではなかろうか。

その限りで本書は、われわれの身近な問題を提示しているといえよう。（毎日新聞社版、一四〇円）



音楽手帖

三月に関西で演奏会を開く、カール・ミュンヒンガー指揮十五人のメンバーから成るシュトゥットガルト室内楽団を皮切りに、春の音楽界はまたしても外来演奏家のブームになりそうである。

四月には〝人間オルガン〟と呼ばれる、ドン・コサック合唱団、伝統に輝く、ウィーン・フィルハーモニック管絃楽団が大挙来日し好楽家の目と耳を楽しませることだろう。その他、ロスアンジェルス・フィルハーモニーや、大編成のブラスバンドである米空軍楽団のコンサートもあり、そのいずれもが個人の演奏家ではなく、音楽団体であるところに、一つの新しい傾向が生れているのを見逃すことは出来ない。

問題は、例年のことながら、はたしてそれら来日する音楽家にそのうち何%が接し得られるかということである。たとえば、ドン・コサックや、ウィーン・フィルの切符を入手するのはそう容易なことではない。〝高い、安い〟を通りこして、演奏会の二カ月前に切符は売りつくされている。曲目はおろか、日どりさえ決らぬ間からこうなんだから、まるで、映画なら何でもいいから見ていたいおのぼりさんの心理と、全く同じようなものだ。逆にいえば、うかうかすると切符が買えなくなるという一種の恐怖観念が働きかけて、こういう結果になるのである。

主催、共催、音楽事務所から会場関係にまでいろいろのコネクションを持つ者でさえ、下手をすると駄目なのだから、他はおして知るべしである。最近音楽を愛する人の絶対数が増えていることはたしかだし、こういった催し物は多くの支持を得、時によっては、かなりの収益をあげている。

極く僅かな枚数の形式的前売りの一般前売りは、勿体ない時間をさいて長蛇の列を作り、それでも切符を入手出来ない好楽家を見るにつけ、この特異な現象が固定観念化される以前に何か打つ手はないものかと考えてみたくなる。

音楽以前の問題であって、しかも最も重要な事柄なのである。

期待の作品

〝女の足あと〟（松竹）

関西地方では昔から奈良のお水取りがすめば春が来るといわれているが、邦画ファンにとって期待できる〝春を告げる足音〟の邦画を一本紹介しよう。

「本日休診」「現代人」「勲章」などの数々の佳作を世に問い、昨年は「青銅の基督」で健在振りを示した渋谷実監督が、伏見晁、田中澄江とともに一年八カ月もシナリオの想を練ったという映画「女の足あと」が封切られる。旅する男との間に結んだかりそめの一夜が、田舎娘にとっては忘れられない誘惑となり、娘はもらった名刺を頼って上京する。しかし名刺の相手は自分の訪ねようとする人ではなく、娘は羞恥と失望から自殺しかけるが、正義を愛する名刺の主に救われる。

かくて都会に生きる厳しさの中に投げ込まれた田舎娘は、封建の殻を一枚ずつ脱いでいこうとする。好色な工場主、愛人を会社の上役に奪われた旅の恋人、冷酷に純粋性を求める名刺の主等。女の座への苛酷な試練が〝純潔、貞操、愛情〟の問題を提示しながら忍耐と服従のみを強いられてきた日本の女性を一歩、一歩明日へと前進させてゆくのである。

常に知性の余裕を匂わせながら社会問題に肉薄していく渋谷実監督が、その皮肉な眼と思想性をもって、この題材を特異なものとしているところに楽しみの一因がかくされてるといえよう。

滅びゆく大草原

ディズニー小父さんが作った映画と聞いただけでうれしくなりました。可愛い人形や動物たちが出てきて美しい絵具でお化粧したり、楽しい夢のような音楽でとんだり跳ねたりする漫画は好きですし、〝水鳥の生態〟や砂漠のお話なども勉強になっていつまでも忘れられません。

今度の「滅びゆく大草原」も本当に良い映画でした。果しなく広がっている大草原に、どうして動物が生きているのだろうと思いましたが、映画はそれを楽しく説明してくれました。そして、科学が進歩して西部劇に出てくる幌馬車が草原を走らなくなった今でも、草原にはその車の跡が残っているところから始りました。最初に「バッファロー」が出てきましたが昔は六千万頭もいたのに今はもう少ししか残っていないということです。可愛い仔牛がお母さんのお腹からでてきますが、生れた時の赤ちゃんはよぼよぼしてなかなかお母さんのお乳が見つかりませんでした。それで僕が心配してるとやっと自分で見つけましたので安心しました。僕は仔牛は生れたら直ぐ何んでも自分でしていくのは偉いなあと思いました。それからインディアンの踊りの始まりだという「ライチョウ」が、マチスの絵のようにたくさんの明るい色で写り上手に踊りましたが「ピューマ」がそれに負けない位に美しい姿勢で、踊るように走るのには驚きました。スローモーションで写したそうですが、まるでバレリーナーのようで、僕は日本の体操選手を思いだしました。「ピューマ」は草原の王者だそうですが満腹の時は残った食物に草をかぶせてかくしておいて、決して他の動物を殺さないのです。やっぱり王者には思いやりがあるのですね。僕もこれから何んでもかでも欲しがって弟とけんかしないようにしようと思います。

それから感心したのは「プレーリー・ドッグ」でした。小ちゃな身体なので鷹や山犬などが殺しに来ますが、上手に自分で砂漠に堀った穴にかくれてしまいます。そして敵が穴の中に入ってきても、色と迷路を作っていて反対の穴から出てきては「ピーピー」と鳴くのです。身体は小さくてもものすごく勇敢で賢いのには感心しました。拍手してやりたい位でした。でも、こんなように草原の動物たちは必要以上に他の動物を傷つけないで棲んでいますが、自然の力には勝てませんでした。稲妻が光ると雷が落ちて草原が大火事になり、そして大洪水がやってくるのです。小ちゃな「プレイリー」が水につかって死にそうになったり動物たちが焼け死んだりするのです。僕は悲しくなって神様にお祈りしようと思いましたが、どうして神様は自分でおつくりになったものを自分でこわしてしまうのでしょうか。

大学にいってる兄ちゃんは「この映画は、過去の美しさが未来の美しさとなるように祈ってディズニー小父さんが作ったんだよ」と教えてくれましたが、僕は生れたての「バッファロー」赤ちゃんが、どんどん大きくなって「オオツノヒツジ」が男らしくツノをぶっつけあうように、早く元気になってほしいと思いました。

前の「砂漠のお話」の時は、強い者ばかりが勝って終いに嫌になりましたが、今度の映画では弱いものでも皆が助け合って生きてる様子がよくわかりました。

（KEN）

女の足あと

巨匠渋谷実が名作「やっさもっさ」以来三年ぶりに放つ風俗映画の粋
汚辱と混乱に満つ現代社会の断面をズバリと抉り尽す意欲野心作!

佐田啓二
有馬稲子
大木実
石浜朗
小林トシ子
淡路恵子
杉村春子

松竹映画野心大作
監督…渋谷実
脚本…伏見晁
〃…田中澄江
〃…渋谷実

28日松竹系封切

日活日活日活日活日活日活日活 信用ある日活映画 日活日活日活日活日活日活日活

原作・川端康成

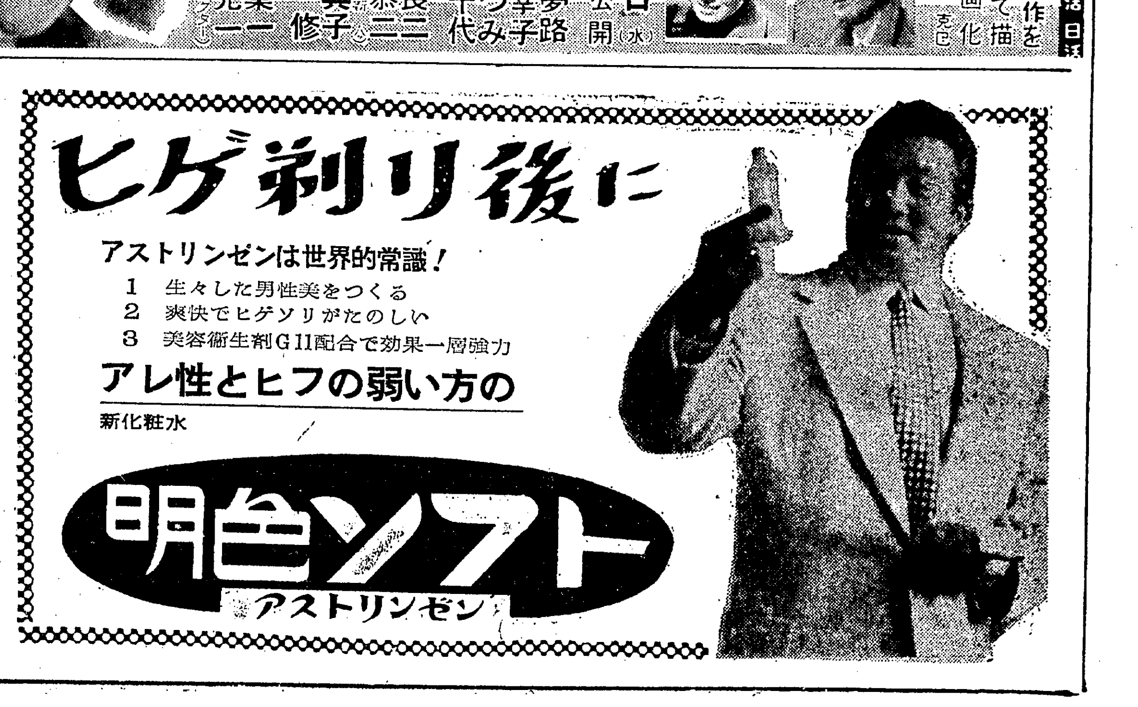
東京の人

川端康成不朽の名作を最適の配役を得て描く香り高き名作映画化

脚本・田中澄江　監督・西河克己

4月四日（水）日活系公開

月丘夢路
左幸子
芦川いづみ
新珠三千代
葉山良二
青山恭二
桂典子
滝沢修
中原[illegible]
三浦光[illegible]


ヒゲ剃り後に

アストリンゼンは世界的常識!
1　生々した男性美をつくる
2　爽快でヒゲソリがたのしい
3　美容衛生剤GII配合で効果一層強力

アレ性とヒフの弱い方の
新化粧水

明色ソフト
アストリンゼン

ナショナル

音の良い優れたラジオにする・・・
ナショナル真空管

ST管・GT管
全品種完備